

○国土交通省告示第四百七十五号

建築基準法施行令（昭和二十五年政令第三百三十八号）第二百二十九条第三項第一号イ及びニ並びに第二号イからニまでの規定に基づき、火災により生じた煙又はガスの高さに基づく階避難安全検証法に関する算出方法を次のように定める。

令和三年五月二十八日

国土交通大臣 赤羽 一嘉

火災により生じた煙又はガスの高さに基づく階避難安全検証法に関する算出方法を定める件

一 建築基準法施行令（以下「令」という。）第二百二十九条第三項第二号に規定する方法を用いる場合における同項第一号イに規定する当該居室に存する者（当該居室を通らなければ避難することができない者を含む。以下「在室者」という。）の全てが当該居室において火災が発生してから当該居室からの避難を終了するまでに要する時間（以下「居室避難完了時間」という。）は、次に掲げる時間を合計して計算するものとする。

イ 当該居室の種類に応じ、それぞれ次の表に掲げる式によって計算した火災が発生してから在室者が避難を開始するまでに要する時間（以下「居室避難開始時間」という。）（単位 分）

当該居室の種類

居室避難開始時間

| | | |
|-----|--|--|
| (一) | <p>当該居室及び当該居室を通らなければ避難することができない建築物の部分（以下「当該居室等」という。）が病院、診療所（患者の収容施設があるものに限る。）又は児童福祉施設等（令第百十五条の三第一号に規定する児童福祉施設等をいう。以下同じ。）（通所のみにより利用されるものを除く。）の用途に供するものである場合</p> | $t_{star(room)} = \min \left(5 \times 10^{-3} L_{wall(room)}^{6/5}, \frac{2 \times 10^{-3} L_{wall(room)}^{6/5}}{d_{room}^{1/5}} + t_{o(room)} \right)$ |
| (二) | <p>当該居室を通らなければ避難することができない部分がない場合又は当該居室を通らなければ避難することができない全ての部分が当該居室への出口（幅が六十</p> | $t_{star(room)} = \min \left(5 \times 10^{-3} L_{wall(room)}^{6/5}, \frac{2 \times 10^{-3} L_{wall(room)}^{6/5}}{d_{room}^{1/5}} + t_{o(room)} \right)$ |

| | | |
|---|------------------------|--|
| <p>センチメートル未満であるものを除く。 ()を有する場合 (-)に掲げるものを除く。 。)</p> | <p>(三) その他の場合</p> | <p>この表において、 $t_{start(room)}$、 $L_{wall(room)}$、 α_{room} 及び $t_{0(room)}$ は、それぞれ次の数値を表すものとする。</p> <p>居室避難開始時間 (単位 分)</p> <p>当該居室の周長 (単位 メートル)</p> <p>次の式によって計算した当該居室又は当該居室に隣接する室 (当該居室と準耐火構造の壁若しくは準不燃材料で造り、若しくは覆われた壁又は令第百十二条第十二項に</p> $t_{start(room)} = \min \left(5 \times 10^{-3} L_{wall(room)}^{6/5}, \frac{2 \times 10^{-3} L_{wall(room)}^{6/5}}{\alpha_{room}^{1/5}} + t_{0(room)} \right) + 3$ |
|---|------------------------|--|

規定する十分間防火設備（以下単に「十分間防火設備」という。）で区画されたものを除く。以下同じ。）の火災成長率のうち最大のもの（以下「居室火災成長率」という。））

$$\alpha_{room,i} = \max(1.51 \times 10^{-4} q_i, 0.0125) \times k_m$$

この式において、 $\alpha_{room,i}$ 、 q_i 及び k_m は、それぞれ次の数値を表すものとする。

$\alpha_{room,i}$ 当該居室又は当該居室に隣接する室の火災成長率

q_i 当該室の種類に応じ、それぞれ次の表に定める積載可燃物の一平方メートル当たりの発熱量（単位 一平方メートルにつきメガジュール）

| | |
|--------|------------------------------|
| 当該室の種類 | 積載可燃物の 一平方メートル 当たりの発熱量 |
| 住宅の居室 | 七二〇 |

| | | | | | | | |
|---|-----------------------|-----------------------|------------|----------------------------|---------------------------------|-------------------------------|------------------------------|
| <p>住宅以外の建築物における寝室（児童福祉施設等の用途に供するものを除く。）又は病室</p> | <p>事務室その他これに類するもの</p> | <p>会議室その他これに類するもの</p> | <p>教室</p> | <p>体育館のアリーナその他これに類するもの</p> | <p>博物館又は美術館の展示室その他これらに類するもの</p> | <p>百貨店又は物品販売業を営む店舗その他これらに</p> | <p>家具又は書籍の売場その他これらに類するもの</p> |
| <p>二四〇</p> | <p>五六〇</p> | <p>一六〇</p> | <p>四〇〇</p> | <p>八〇</p> | <p>二四〇</p> | <p>九六〇</p> | |

| | | | | | | |
|---|-------------------|--|--|----------------|--------------|---------------|
| <p>自動車車庫又は自動車修 劇場、映画館、演芸場、 観覧場、公会堂、集会室 その他これらに類する用 途に供する室</p> | <p>飲食店その他の飲食室</p> | | <p>類するもの</p> | | | |
| <p>車室その他これに類する</p> | <p>舞台部分</p> | <p>客席部分</p> | | <p>その他の飲食室</p> | <p>簡易な食堂</p> | <p>その他の部分</p> |
| <p>二四〇</p> | <p>二四〇</p> | <p>合 その他の場 四八〇</p> | <p>合 固定席の場 四〇〇</p> | <p>四八〇</p> | <p>二四〇</p> | <p>四八〇</p> |

| | | | |
|------------------------------|--|----------------------|-----------|
| | | | |
| | | | |
| | | 理工場 | |
| <p>廊下、階段その他の通路</p> | | <p>部分</p> | <p>部分</p> |
| <p>玄関ホール、ロビーその他これらに類するもの</p> | <p>劇場、映画館、演芸場、観覧場、公会堂若しくは集会場その他これらに類する用途又は百貨店若しくは物品販売業を営む店舗その他これらに類する用途に供する建築物の玄関ホール、ロビーその他これらに類するもの</p> | <p>車路その他これに類する部分</p> | |
| | 一六〇 | 三二一 | 三二一 |

| | | |
|---------------------------------------|--------|----|
| | その他のもの | 八〇 |
| 昇降機その他の建築設備の機械室 | 一六〇 | |
| 屋上広場又はバルコニー | 八〇 | |
| 倉庫その他の物品の保管の用に供する室 | 二、〇〇〇 | |
| 病院又は診療所の診察室又は待合室 | 二四〇 | |
| 保育所又は幼保連携型認定こども園の用途に供する室 | 二四〇 | |
| 児童福祉施設等（保育所及び幼保連携型認定こども園を除く。）の用途に供する室 | 四〇〇 | |

k_m

当該室の内装仕上げの種類に応じ、それぞれ次の表に定める内装燃焼係数

| | (-) | (二) |
|--------------|---|----------------------|
| 当該室の内装仕上げの種類 | 壁（床面からの高さが一・二メートル以下の部分を除く。以下この表において同じ。）及び天井（天井のない場合においては、屋根。以下同じ。）の室内に面する部分（回り縁、窓台その他これらに類する部分を除く。以下この表において同じ。）の仕上げを平成二十一年国土交通省告示第二百二十五号第一第一号に規定する特定不燃材料（平成十二年建設省告示第千四百号第十五号に規定する建築材料を除く。）でしたもの | 壁及び天井の室内に面する部分の仕上げを不 |
| 内装燃焼係数 | 一・〇 | 一・一 |

| | | | |
|--------------------------------------|---|--|--|
| | (三) | (四) | (五) |
| <p>燃材料でしたもの (一) に掲げるものを除く。)</p> | <p>壁及び天井の室内に面する部分の仕上げを準不燃材料でしたもの (一) 及び (二) に掲げるものを除く。)</p> | <p>壁及び天井の室内に面する部分の仕上げを難燃材料でしたもの (一) から (三) までに掲げるものを除く。)</p> | <p>壁の室内に面する部分の仕上げを木材等 (平成十二年建設省告示第千四百三十九号第一号に規定する木材等をいう。以下同じ。) でし、かつ、天井の室内に面する部分の仕上げを準不燃材料でしたもの (一) から (四) までに</p> |
| | 一・二 | 一・五 | 二・〇 |

$t_{0(\text{room})}$

次の式によって計算した当該居室の燃焼拡大補正時間（単位 分）

$$t_{0(\text{room})} = \frac{100 - \left(\frac{100}{\alpha_{\text{room}}}\right)^{1/2}}{60}$$

この式において、 $t_{0(\text{room})}$ 及び α_{room} は、それぞれ次の数値を表すものとする。

α_{room} $t_{0(\text{room})}$

当該居室の燃焼拡大補正時間（単位 分）

居室火災成長率

掲げるものを除く。）

(六)

壁及び天井の室内に面する部分の仕上げを木材等でしたもの（一）から（五）までに掲げるものを除く。）

二・二

ロ 当該居室等の各部分から当該居室の出口（幅が六十センチメートル未満であるものを除き、当該居室から直通階段（避難階又は地上に通ずるもの）に限り、当該直通階段が令第二百二十三条第三項に規定する特別避難階段である場合にあつては、当該直通階段への出口を有する室を同項第二号並びに第三号、第四号、第六号及び第九号（これらの規定中バルコニー又は付室に係る部分に限る。）並びに第十号（バルコニー又は付室から階段室に通ずる出入口に係る部分に限る。）に定める構造としたものに限る。以下同じ。）（当該居室が避難階に存する場合にあつては地上）に通ずる主たる廊下その他の通路に通ずる出口に限る。以下同じ。）を經由して直通階段（当該居室が避難階に存する場合にあつては地上）に至る各経路（避難の用に供するものであつて、当該経路上にある各出口の幅が六十センチメートル以上であるもの）に限る。以下このロにおいて「避難経路」という。）ごとに、当該居室等の種類、当該避難経路上にある当該居室の出口に面する部分（以下「居室避難経路等の部分」という。）の収容可能人数及び居室出口滞留時間に応じ、それぞれ次の表に掲げる式によって計算した在室者が当該居室等の各部分から当該居室の出口の一に達し、当該出口を通過するために要する時間（以下「居室出口通過時間」という。）のうち最大のもの（単位 分）

| | | | |
|----------|----------|------|------|
| 当該居室等の種類 | 居室避難経路等の | 居室出口 | 居室出口 |
|----------|----------|------|------|

| | | | |
|---|--|--|---|
| | <p>部分の収容可能人数</p> | <p>滞留時間</p> | <p>通過時間</p> |
| <p>病院、診療所（患者の収容施設があるものに限る。）又は児童福祉施設等（通所のみにより利用されるものを除く。）の用途に供するもの</p> | <p>$P_{co} \equiv P_{room}$ である場合</p> | <p>—</p> | $t_{pass(room),i} = \sum_{D_{crowd}} \frac{l_{room}}{D_{crowd}}$ |
| <p>その他のもの</p> | <p>—</p> | <p>$t_{crowd(room)} \leq 3$ である場合</p> | $t_{pass(room),i} = \max \left(\sum_{D_{crowd}} \frac{l_{room}}{D_{crowd}}, t_{crowd(room)} \right)$ |
| <p>準耐火構造の壁若しくは準不燃材料で造り、若しくは覆われた壁又は十分間防火設備で区画さ</p> | <p>—</p> | <p>$t_{crowd(room)} > 3$ である場合</p> | $t_{pass(room),i} = \max \left(\sum_{D_{crowd}} \frac{l_{room}}{D_{crowd}}, t_{crowd(room)} \right) + 3$ |

| | | | | | | |
|---|---|---|----------|----------|---|---|
| <p>この表において、P_{co}、P_{room}、$t_{pass(room),i}$、l_{room}、v_{crowd} 及び $t_{crowd(room)}$ は、それぞれ次の数値を表すものとする。</p> <p>P_{co} 次の式によって計算した居室避難経路等の部分の収容可能人数（単位 人）</p> $P_{co} = \sum \frac{k_{co} A_{co}}{a_n}$ <p>この式において、P_{co}、k_{co}、A_{co} 及び a_n は、それぞれ次の数値を表すものとする</p> | <p>れたもの</p> | <p>その他のもの</p> | <p> </p> | <p> </p> | <p>ある場合</p> <p>$t_{crowd(room)} \leq 1.5$ かつ</p> $t_{pass(room),i} = \max \left(\sum \frac{l_{room}}{v_{crowd}}, t_{crowd(room)} \right) + 4.5$ | <p>ある場合</p> <p>$t_{crowd(room)} > 1.5$ かつ</p> $t_{pass(room),i} = \max \left(\sum \frac{l_{room}}{v_{crowd}}, t_{crowd(room)} \right) + 4.5$ |
| | <p>ある場合</p> <p>$t_{crowd(room)} \leq 1.5$ かつ</p> $t_{pass(room),i} = \max \left(\sum \frac{l_{room}}{v_{crowd}}, t_{crowd(room)} \right) + 4.5$ | <p>ある場合</p> <p>$t_{crowd(room)} > 1.5$ かつ</p> $t_{pass(room),i} = \max \left(\sum \frac{l_{room}}{v_{crowd}}, t_{crowd(room)} \right) + 4.5$ | | | | |

。

k_{co} P_{co}
 居室避難経路等の部分の収容可能人数（単位 人）
 k_{co} 居室避難経路等の部分の各部分の種類に応じ、それぞれ次の表に定める有効滞留面積率

| | |
|--|---------|
| 居室避難経路等の部分の各部分の種類 | 有効滞留面積率 |
| 居室 | ○・五 |
| 玄関ホール、ロビーその他これらに類するもの | ○・七 |
| 廊下その他の通路、階段室又は階段の付室（令第二百二十三条第三項第二号から第四号まで、第六号、 | 一・〇 |

第九号及び第十号に定める構造であるものに限る。)若しくはバルコニー(同項第三号、第六号、第九号及び第十号に定める構造であるものに限る。)

A_{co}

居室避難経路等の部分の各部分(当該部分が階段室である場合にあっては、当該居室の存する階からその直下階までの階段室(当該居室の存する階が地階である場合にあっては当該居室の存する階からその直上階までの階段室、当該居室の存する階が避難階である場合にあっては当該居室の存する階の階段室)に限る。)の床面積(単位 平方メートル)

a_n 居室避難経路等の部分の各部分の用途及び種類に応じ、それぞれ次の表に定める必要滞留面積(単位 一人につき平方メートル)

居室避難経路等の部分の各部

居室避難経路等の部分

必要滞留面積

| 分の用途 | の各部分の種類 | | その他の用途 |
|--|---------|-----|------------------------------------|
| 病院、診療所（患者の収容施設を有するものに限る。）又は児童福祉施設等（通所のみにより利用されるものを除く。） | | | 居室、廊下その他の通路又は玄関ホール、ロビーその他これらに類するもの |
| 四・〇 | | 一・〇 | 〇・三 |

| | |
|--------------|------|
| | |
| 階段室 | ○・二五 |
| 階段の付室又はバルコニー | ○・二 |

P_{room}

次の式によって計算した在室者のうち当該避難経路上にある当該居室の出口を
 通って避難する者の数（単位 人）

$$P_{room} = \sum p A_{area(room)} \times \left(\frac{B_{room}}{B_{load(room)}} \right)$$

この式において、 P_{room} 、 p 、 $A_{area(room)}$ 、 B_{room} 及び $B_{load(room)}$ は、それぞれ次の数値を表すものとする。

P_{room} 在室者のうち当該避難経路上にある当該居室の出口を
 通って避難する者の数（単位 人）

^p 建築物の部分の種類に応じ、それぞれ次の表に定める在館者密度（単位：一平方メートルにつき人）

| | | | | | | |
|-----|---------------------|--------------------|----------------|-------|-----------|-------|
| 教室 | 事務室、会議室その他これらに類するもの | 住宅以外の建築物における寝室又は病室 | | 住宅の居室 | 建築物の部分の種類 | 在館者密度 |
| | | 固定ベッドの場合 | その他の場合 | | | |
| 〇・七 | 〇・一二五 | 〇・一六 | ベッド数を床面積で除した数値 | 〇・〇六 | | |

| | | | | | | |
|-------------|----------------|--|---------------|-----|-----------------------------|--------------|
| 病院又は診療所の診察室 | 展示室その他これに類するもの | 劇場、映画館、演芸場、観覧場、公会堂、集会場その他これらに類する用途に供する居室 | | 飲食室 | 百貨店又は物品販売業を営む店舗その他これらに類するもの | |
| | | 固定席の場合 | 座席数を床面積で除した数値 | | 売場の部分 | 売場に附属する通路の部分 |
| ○・一六 | ○・五 | 一・五 | | ○・七 | | ○・二五 |
| | | | | | | ○・五 |

B_{room} $A_{area(room)}$

当該避難経路上にある当該居室の出口の幅の合計（単位メートル）

当該居室等の各部分の床面積（単位 平方メートル）

| | | | |
|--|---------------------------|-----------------------------|-------------|
| 児童福祉施設等（保育所及び幼保連携型認定こども園を除く。）の用途に供する居室（寝室を除く。） | 保育所又は幼保連携型認定こども園の用途に供する居室 | | 病院又は診療所の待合室 |
| | その他の場合 | 乳児又は満二歳に満たない幼児を保育する用途に供する場合 | |
| ○・三三 | ○・五 | ○・六 | ○・五 |

| | | |
|---------------------------------|---------------------------------|---|
| 演 芸 場 、 観 覧 場 | 劇 場 、 映 画 館 、 | 建 築 物 の 部 分 の 用 途 |
| | 階 段 | 建 築 物 の 部 分 の 種 類 |
| | 上 り | 避 難 の 方 向 |
| | 九 | 滞 留 時 歩 行 速 度 |

v_{crowd} 建築物の部分の用途及び種類並びに避難の方向に応じ、それぞれ次の表に定める滞留時歩行速度（単位 メートル毎分）

l_{room} 当該居室等の各部分から当該避難経路上にある当該居室の出口の一に至る歩行距離（単位 メートル）

$t_{pass(room),i}$ 居室出口通過時間（単位 分）

$B_{load(room)}$ 当該居室の出口の幅の合計（単位 メートル）

| | | | | | | |
|-------------------------------|----|--|----|---|--------|----------------------------------|
| 診療所（患者の 収容施設を有し ないものに限る | 階段 | 除く。） 用されるものを 所のみにより利 福祉施設等（通 る。）又は児童 患者の収容施設 があるものに限 る。）又は病室 使用するものに限 る。）又は病室 廊下 その他の部分（階 段を除く。） | 廊下 | 寝室（入所する者 の）又は病室 使用するものに限 る。）又は病室 | その他の部分 | 、公会堂、集 会 場その他これら に類する用途 |
| | | | | | | |
| 下り | 上り | ｜ | ｜ | ｜ | ｜ | 下り |
| 一二 | 九 | 三〇 | 三 | 一五 | 三〇 | 一二 |

| 用途 | 類する | これに | その他 | る。) | のに限 | れるも | 利用さ | により | 所のみ | 等(通 | 社施設 | 児童福 | |
|----|-----|-----|-----|-----|--------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|--------|
| の階 | 階以下 | 階が三 | 階が三 | 階が三 | 階が三 | 階が三 | 階が三 | 階が三 | 階が三 | 階が三 | 階が三 | 階が三 | 階が三 |
| 用途 | 階以下 | 階が三 | 階が三 | 階が三 | 階が三 | 階が三 | 階が三 | 階が三 | 階が三 | 階が三 | 階が三 | 階が三 | 階が三 |
| | | | | | その他の部分 | | 廊下 | | 保育室 | | 階段 | | その他の部分 |
| | | | | | | | | | | | 下り | | |
| | | | | | 三〇 | | 八 | | 一二 | | 二・五 | | 三〇 |

| 乳児又は満二歳に満たない幼児を保育する場 合以外の場合 当該用 途に する 階 | ある 場 合 に 限 る。 |
|--|------------------------------|
| その他の部分 | 階段 |
| | 下り 上り |
| 一五 | 六 四・五 |

| | | | |
|--|----|--------|---------------------------------------|
| 百貨店、展示場 その他これらに 類する用途又は 共同住宅、ホテ ルその他これら に類する用途（ 病院、診療所及 び児童福祉施設 等を除く。） | | | が五階 以下の 階であ る場合 に限る 。） |
| | 階段 | その他の部分 | |
| | 下り | 上り | |
| 一 | | | |
| 三〇 | 一二 | 九 | |

| | | |
|-------------------------------------|----|--------|
| 学校（幼保連携型認定こども園を除く。）、事務所その他これらに類する用途 | | |
| 階段 | | その他の部分 |
| | 下り | 上り |
| 1 | | |
| 三九 | 一六 | 一二 |

$t_{crowd(room)}$

当該居室等の用途及び当該避難経路上にある当該居室の出口の幅の合計に
、それぞれ次の表に掲げる式によって計算した居室出口滞留時間（単位 分）

| | | |
|-------------|--|--|
| 当該居室等の用途 | 当該避難経路上にある当該居室の出口の幅の合計 | 居室出口滞留時間 |
| 児童福祉施設等（通所） | $90B_{room} \leq R_{neck(room)}$ である場合 | $t_{crowd(room)} = \frac{P}{45B_{room}}$ |

| | | |
|--|--|--|
| <p>のみにより利用される ものに限る。)</p> | $90B_{room} > R_{neck(room)}$ である場合 | $t_{crowd(room)} = \frac{\min(P_{room}, P_{co})}{45B_{room}} + \frac{\max(P_{room} - P_{co}, 0)}{0.5R_{neck(room)}}$ |
| <p>その他の用途</p> | $90B_{room} \leq R_{neck(room)}$ である場合 | $t_{crowd(room)} = \frac{P_{room}}{90B_{room}}$ |
| <p>この表において、B_{room}、$R_{neck(room)}$、$t_{crowd(room)}$、P_{room} 及び P_{co} は、それぞれ次の数値を表すものとする。</p> | $90B_{room} > R_{neck(room)}$ である場合 | $t_{crowd(room)} = \frac{\min(P_{room}, P_{co})}{90B_{room}} + \frac{\max(P_{room} - P_{co}, 0)}{R_{neck(room)}}$ |

B_{room}

$R_{neck(room)}$

当該避難経路上にある当該居室の出口の幅の合計（単位：メートル）

次の式によって計算した当該避難経路の流動量（単位：一分につき人）

$$R_{neck(room)} = \min(90D_{co(room)}, R_{d(room)}, R_{st(room)})$$

この式において、 $R_{neck(room)}$ 、 $D_{co(room)}$ 、 $R_{d(room)}$ 及び $R_{st(room)}$ は、それぞれ次の数値を表すものとする。

$R_{neck(room)}$

当該避難経路の流動量（単位：一分につき人）

$D_{co(room)}$

当該避難経路上の各廊下（当該居室等に設けられた廊下を除く。以下この口において同じ。）の幅のうち最小のもの（単位：メートル）

$R_{d(room)}$

次の式によって計算した当該避難経路上にある各出口（当該居室等に設けられた出口を除く。以下この口において同じ。）の有効流動量のうち最小のもの（単位 一分につき人）

$$R_{d(room),i} = B_{d(room)} N_{d(room)}$$

この式において、 $R_{d(room),i}$ 、 $B_{d(room)}$ 及び $N_{d(room)}$ は、それぞれ次の数値を表すものとする。

$R_{d(room),i}$ 当該避難経路上にある各出口の有効流動量（単位 一分につき人）

$B_{d(room)}$ 当該出口の幅（単位 メートル）

$N_{d(room)}$ 当該出口の種類に応じ、それぞれ次の表に掲げる式によって計算した当該出口の流動係数（単位 一分メートルに

つき人)

| | |
|---|--|
| <p>当該出口の種類</p> | <p>当該出口の流動係数</p> |
| <p>階段又は居室に設けられた出口</p> | <p>$N_{d(\text{room})} = 90$</p> |
| <p>その他の出口</p> | <p>$N_{d(\text{room})} = \min \left\{ \max \left(150 - \frac{60B_{d(\text{room})}}{D_{co(\text{room})}}, 90 \right), 120 \right\}$</p> |
| <p>この表において、$N_{d(\text{room})}$、$B_{d(\text{room})}$及び$D_{co(\text{room})}$は、それぞれ次の数値を表すものとする。</p> <p>$N_{d(\text{room})}$ 当該出口の流動係数（単位 一分メートルにつき人）</p> | |

$R_{st(room)}$

次の式によって計算した当該避難経路上の各階段（当該居室等に設けられた階段を除く。以下このロにおいて同じ。）又は直通階段の有効流動量のうち最小のもの（単位 一分につき人）

$$R_{st(room),i} = D_{st(room)} N_{st(room)}$$

この式において、 $R_{st(room),i}$ 、 $D_{st(room)}$ 及び $N_{st(room)}$ は、それぞれ次の数値を表すものとする。

$D_{co(room)}$ $B_d(room)$

当該出口の幅（単位 メートル）

当該避難経路上の各廊下の幅のうち最小のもの
（単位 メートル）

| | | | |
|--|---|--------------|--|
| <p>おり、かつ、屋内と付室とが準耐火構造の壁若しくは不燃材料で造り、若しくは覆われた壁若しくは建築基準法（昭和二十五年法律第二百一十号。以下「法」という。）第二条第九号の二口に規定する防火設備で令第一百十二条第十九項第二号に規定する構造であるもので区画された直通階段又は直通階段</p> | <p>上り</p> | <p>である場合</p> | $\left. \begin{matrix} D_{\text{landing}(\text{room})} \\ 90 D_{\text{st}(\text{room})} \end{matrix} \right\}$ |
| <p>である場合</p> | $N_{\text{st}(\text{room})} = \min \left\{ 60 \right. \\ \left. - 36 \left(1 - \frac{D_{\text{landing}(\text{room})}}{D_{\text{st}(\text{room})}} \right), \right. \\ \left. 90 \frac{D_{\text{landing}(\text{room})}}{D_{\text{st}(\text{room})}} \right\}$ | | |
| <p>である場合</p> | $N_{\text{st}(\text{room})} = 60$ | | |

| | | | | | |
|-------|----|---|--|--|--|
| 以外の階段 | | その他の直通階段 | | | |
| | 下り | $D_{\text{landing}(\text{room})}$ $< D_{\text{st}(\text{room})}$ である場合 | $N_{\text{st}(\text{room})} = \min \left\{ 72 \right.$ $- 48 \left(1 - \frac{D_{\text{landing}(\text{room})}}{D_{\text{st}(\text{room})}} \right),$ $\left. 90 \frac{D_{\text{landing}(\text{room})}}{D_{\text{st}(\text{room})}} \right\}$ $\times 0.5^{\max(N'-2, 0)}$ | | |
| | | $D_{\text{landing}(\text{room})}$ $\geq D_{\text{st}(\text{room})}$ である場合 | $N_{\text{st}(\text{room})} = 72$ $\times 0.5^{\max(N'-2, 0)}$ | | |
| | 上り | $D_{\text{landing}(\text{room})}$ $< D_{\text{st}(\text{room})}$ | $N_{\text{st}(\text{room})} = \min \left\{ 60 \right.$ $- 36 \left(1 - \frac{D_{\text{landing}(\text{room})}}{D_{\text{st}(\text{room})}} \right),$ | | |

| |
|--|
| |
| |
| |
| |

| | | | |
|--|---|--|--|
| $D_{landing(room)}$ 当該階段の踊り場の幅（単位　メートル） | この表において、 $D_{landing(room)}$ 、 $D_{st(room)}$ 、 $N_{st(room)}$ 及び N' は、それぞれ次の数値を表すものとする。 | である場合 | $\left. \begin{aligned} &90 \frac{D_{landing(room)}}{D_{st(room)}} \\ &\times 0.5 \max(N'-2.0) \end{aligned} \right\}$ |
| | | $D_{landing(room)} \geq D_{st(room)}$ である場合 | $\begin{aligned} N_{st(room)} &= 60 \\ &\times 0.5 \max(N'-2.0) \end{aligned}$ |

| |
|--|
| |
| |
| |

二 令第二百二十九条第三項第二号イに規定する同項第一号イの規定によって計算した居室避

| | | | |
|-------------------------|-------------------------------------|-------------------|------------------------|
| P_{co} | P_{room} | $t_{crowd(room)}$ | |
| 居室避難経路等の部分の収容可能人数（単位 人） | 居室避難経路上にある当該居室の出口を通過して避難する者の数（単位 人） | 居室出口滞留時間（単位 分） | |
| | | | N' |
| | | | 当該建築物の階数 |
| | | | $N_{st(room)}$ |
| | | | 当該階段の流動係数（単位 一分メートルにつき |
| | | | 人） |
| | | | $D_{st(room)}$ |
| | | | 当該階段の幅（単位 メートル） |

難完了時間が経過した時における当該居室において発生した火災により生じた煙又はガス（以下「煙等」という。）の高さ（当該居室の基準点（床面の最も高い位置をいう。以下同じ。）から煙等の下端の位置までの高さとする。以下「居室煙層下端高さ」という。）は、居室避難完了時間が経過した時における当該居室の煙層上昇温度（以下単に「当該居室の煙層上昇温度」という。）及び居室避難完了時間に応じ、それぞれ次の表に掲げる式によつて計算するものとする。

| | | | | | |
|-------------|--------------|----------|---|---|------------------|
| 当該居室の煙層上昇温度 | 居室避難 完了時間 | 居室煙層下端高さ | $\Delta T_{r,room} < 180$ である場合 | — | $Z_{room} = 0$ |
| | | | ある場合 $\Delta T_{r,room} \leq 180$ かつ である場合 $\Delta T_{r,room} \leq \frac{500}{\sqrt{3t_{pass}(room)}}$ | — | $Z_{room} = 1.8$ |

| | | | |
|---|---|---|--|
| | $\frac{\Delta T_{r,room} > \sqrt[3]{\frac{500}{3t_{pass}(room)}}}{}$ <p>である場合</p> | $t_{escape}(room) \leq 13$ <p>である場合</p> | $Z_{room} = \max \left[\frac{11 t_{escape}(room)^{5/3}}{\rho_{r,room} A_{room}} + \frac{1}{(H_{room} + h_{room})^{2/3}} \right]^{-3/2} - h_{room}, 0$ |
| <p>この表において、$\Delta T_{r,room}$、Z_{room}、$t_{pass}(room)$、$t_{escape}(room)$、$\rho_{r,room}$、A_{room}、H_{room}、h_{room}、$Z_{phase1}(room)$、$V_{s(r,room)}$ 及び $V_{e(r,room)}$ は、それぞれ次の数値を表すものとする。</p> | | $t_{escape}(room) > 13$ <p>である場合</p> | $Z_{room} = \max \left[\frac{Z_{phase1}(room)}{\frac{\max(V_{s(r,room)} - V_{e(r,room)}, 0.01) \times (t_{escape}(room) - 3)}{A_{room}}}, 0 \right]$ |
| <p>$\Delta T_{r,room}$ 居室避難完了時間に応じ、それぞれ次の表に掲げる式によって計算した当該居室の煙層上昇温度（単位 度）</p> | | <p>居室避難完了時間 当該居室の煙層上昇温度</p> | |

| | |
|---|--|
| $t_{escape(room)} \leq t_{m(room)}$ である場合 | $\Delta T_{r,room} = \min \left\{ \frac{Q_{r,room}}{0.37Q_{r,room}^{1/3} + 0.015A_{w(room)}}, \Delta T_{room(max)} \right\}$ |
| $t_{escape(room)} > t_{m(room)}$ である場合 | $\Delta T_{r,room} = \Delta T_{room(max)}$ |
| <p>この表において、$t_{escape(room)}$、$t_{m(room)}$、$\Delta T_{r,room}$、$Q_{r,room}$、$A_{w(room)}$ 及び $\Delta T_{room(max)}$ は、それぞれ次の数値を表すものとする。</p> <p>前号に規定する居室避難完了時間（単位 分）</p> <p>$t_{m(room)}$ $t_{escape(room)}$</p> <p>当該居室又は当該居室に隣接する室の内装仕上げの種類に応じ、それぞれの次の表に掲げる式によって計算した当該居室又は当該居室に隣接する室の燃烧抑制時間のうち最小のもの（単位 分）</p> | |

| | | |
|----------------------------------|---|---|
| | (一) | (二) |
| <p>当該居室又は当該居室に隣接する室の内装仕上げの種類</p> | <p>壁（床面からの高さが一・二メートル以下の部分を除く。以下この表において同じ。）及び天井の室内に面する部分（回り縁、窓台その他これらに類する部分を除く。以下この表において同じ。）の仕上げを不燃材料としたもの</p> | <p>壁及び天井の室内に面する部分の仕上げを準不燃材料としたもの（一）に掲げるものを除</p> |
| <p>当該居室又は当該居室に隣接する室の燃焼抑制時間</p> | <p>$t_{m(room),i} = 20$</p> | <p>$t_{m(room),i} = 10$</p> |

| | | |
|-----|---|--|
| | く。) | |
| (三) | 壁及び天井の室内に面する部分の仕上げを難燃材料でしたもの又は壁の室内に面する部分の仕上げを木材等でし、かつ、天井の室内に面する部分の仕上げを準不燃材料でしたもの(一)及び(二)に掲げるものを除く。) | $t_{m(\text{room})i} = 5$ |
| (四) | 壁及び天井の室内に面する部分の仕上げを木材等でしたもの(一)から(三)までに掲げるものを除く。) | $t_{m(\text{room})i} = \min \left\{ t_{0(\text{room})} + \frac{1}{60} \left(\frac{18H_{\text{room}(\text{min})}}{\alpha_{\text{room}i}} \right)^{5/2} \right\}^{1/2} \cdot 2$ |

| | | | | | |
|----|--------------------------------|----------------------------------|-----------------------------|-------------------------------|---|
| | | | | | この表において、 $t_{m(room),i}$ 、 $t_{0(room)}$ 、 $H_{room(min)}$ 及び $\alpha_{room,i}$ は、それぞれ次の数値を表すものとする。 |
| | $\alpha_{room,i}$ | $H_{room(min)}$ | $t_{0(room)}$ | $t_{m(room),i}$ | |
| 長率 | 前号イに規定する当該居室又は当該居室に隣接する室の火災成長率 | 当該室の基準点から天井の最も低い位置までの高さ（単位：メートル） | 前号イに規定する当該居室の燃焼拡大補正時間（単位：分） | 当該居室又は当該居室に隣接する室の燃焼抑制時間（単位：分） | |

当該居室の煙層上昇温度（単位 度）

$Q_{r,room}$ $\Delta T_{r,room}$

居室避難完了時間に応じ、それぞれ次の表に掲げる式によって計算した
当該居室における一秒間当たりの発熱量（単位 キロワット）

| | |
|---------------------------------|--|
| 居室避難完了時間 | 当該居室における一秒間当たりの発熱量 |
| $t_{escape(room)} \leq 5$ である場合 | $Q_{r,room} = 0.01(60t_{gscapex(room)})^2$ |
| $t_{escape(room)} > 5$ である場合 | $Q_{r,room} = a_{room}(60t_{gscapex(room)} - 60t_0(room))^2$ |

この表において、 $t_{escape(room)}$ 、 $Q_{r,room}$ 、 a_{room} 及び $t_0(room)$ は、それぞれ次の数値を表すもの

とする。

$t_{escape(room)}$ 前号に規定する居室避難完了時間（単位 分）

$Q_{r,room}$ 当該居室における一秒間当たりの発熱量（単位 キロワット）

α_{room} 前号イに規定する居室火災成長率

$t_{0(room)}$ 前号イに規定する当該居室の燃烧拡大補正時間（単位 分）

$A_w(room)$ 当該居室の壁（基準点からの高さが一・八メートル以下の部分を除く。）及び天井の室内に面する部分の表面積（単位 平方メートル）

$\Delta T_{room(max)}$ 当該室の内装仕上げの種類に応じ、それぞれ次の表に定める最大煙層上

昇温度（単位 度）

| | |
|---|---------------------|
| <p>(一)</p> | |
| <p>壁（床面からの高さが一・二メートル以下の部分を除く。以下この表において同じ。）及び天井の室内に面する部分（回り縁、窓台その他これらに類する部分を除く。以下この表において同じ。）の仕上げを難燃材料としたもの又は壁の室内に面する部分の仕上げを木材等でし、かつ、天井の室内に面する部分の仕上げを準不燃材料としたもの</p> | <p>当該室の内装仕上げの種類</p> |
| <p>六三〇</p> | <p>最大煙層上昇温度</p> |

(二)

壁及び天井の室内に面する部分の仕上げを木材等でしたもの（一）に掲げるものを除く。

九四五

Z_{room}

居室煙層下端高さ（単位 メートル）

$t_{pass(room)}$

前号口に規定する居室出口通過時間のうち最大のもの（単位 分）

$t_{escape(room)}$

前号に規定する居室避難完了時間（単位 分）

$\rho_{r,room}$

次の式によって計算した居室避難完了時間が経過した時における当該居室の煙層密度（以下単に「当該居室の煙層密度」という。）（単位 一立方メートルにつきキログラム）

$$\rho_{r,room} = \frac{353}{\Delta T_{r,room} + 293}$$

この式において、 $\rho_{r,room}$ 及び $\Delta T_{r,room}$ は、それぞれ次の数値を表すものとする。

$\Delta T_{r,room}$ 当該居室の煙層上昇温度（単位 度）

$\rho_{r,room}$ 当該居室の煙層密度（単位 一立方メートルにつきキログラム）

A_{room} 当該居室の床面積（単位 平方メートル）

H_{room} 当該居室の基準点から天井までの高さの平均（単位 メートル）

h_{room} 当該居室の床面の最も低い位置から基準点までの高さ（単位 メートル）

$Z_{phase1(room)}$ 次の式によって計算した火災発生後百秒間が経過した時における居室煙層下端

高さ（単位 メートル）

$$Z_{\text{phase1(room)}} = \max \left[\frac{26}{\rho_{r,room} A_{room}} + \frac{1}{(H_{room} + h_{room})^{2/3}} \right]^{-3/2} - h_{room,0}$$

この式において、 $Z_{\text{phase1(room)}}$ 、 $\rho_{r,room}$ 、 A_{room} 、 H_{room} 及び h_{room} は、それぞれ次の数値を表すものとする。

| | | | | |
|----------------------------------|------------------------------|---------------------|-------------------------------|------------------------------------|
| h_{room} | H_{room} | A_{room} | $\rho_{r,room}$ | $Z_{\text{phase1(room)}}$ |
| 当該居室の床面の最も低い位置から基準点までの高さ（単位メートル） | 当該居室の基準点から天井までの高さの平均（単位メートル） | 当該居室の床面積（単位 平方メートル） | 当該居室の煙層密度（単位 一立方メートルにつきキログラム） | 火災発生後百秒間が経過した時における居室煙層下端高さ（単位メートル） |

$V_{s(r,room)}$

次の式によって計算した当該居室の煙等発生量（単位 立方メートル毎分）

$$V_{s(r,room)} = \frac{4.2 \left(\frac{Q_{r,room}}{3} \right)^{1/3} \{ (Z_{phase1(room)} + h_{room})^{5/3} + (h_{room} + 1.8)^{5/3} \}}{P_{r,room}}$$

この式において、 $V_{s(r,room)}$ 、 $Q_{r,room}$ 、 $Z_{phase1(room)}$ 、 h_{room} 及び $P_{r,room}$ は、それぞれ次の数値を表すものとする。

$V_{s(r,room)}$ 当該居室の煙等発生量（単位 立方メートル毎分）

$Q_{r,room}$ 当該居室における一秒間当たりの発熱量（単位 キロワット）

$Z_{phase1(room)}$ 火災発生後百秒間が経過した時における居室煙層下端高さ（単位 メートル）

$V_{e(r,room)}$

h_{room}
当該居室の床面の最も低い位置から基準点までの高さ（単位 メートル）

$\rho_{r,room}$
当該居室の煙層密度（単位 一立方メートルにつきキログラム）

次の式によって計算した当該居室の有効排煙量（単位 立方メートル毎分）

$$V_{e(r,room)} = \min(1.54, \rho_{r,room}^{-0.15}, 0.8) \times \left(\frac{\bar{H}_{st(room)} - 1.8}{H_{top(room)} - 1.8} \right) E_{r,room}$$

この式において、 $V_{e(r,room)}$ 、 A_{room} 、 $\bar{H}_{st(room)}$ 、 $H_{top(room)}$ 及び $E_{r,room}$ は、それぞれ次の数値を表すものとする。

$V_{e(r,room)}$ 当該居室の有効排煙量（単位 立方メートル毎分）
 A_{room} 当該居室の床面積（単位 平方メートル）

| $\bar{H}_{st(room)}$ | $H_{top(room)}$ | $E_{r,room}$ |
|---|---|---|
| <p>当該居室の基準点から当該居室に設けられた各有効開口部（壁又は天井に設けられた開口部の床面からの高さが一・八メートル以上の部分をいう。以下同じ。）の上端までの高さの平均（単位　メートル）</p> | <p>当該居室の基準点から天井までの高さのうち最大のもの（単位　メートル）</p> | <p>当該居室に設けられた有効開口部の種類に応じ、それぞれ次の表に掲げる式によって計算した当該居室に設けられた各有効開口部及び当該有効開口部の開放に伴い開放される当該居室に設けられた他の有効開口部のうち当該有効開口部からの距離が三十メートル以内であるもの（以下この号において「他の有効開口部」という。）の排煙量の合計のうち最小のもの（当該居室に設けられた有効開口部の種類が同表(二)に掲げるものである場合にあつては、当該居室に設けられた各有効開口部及び他の有効開口部の排煙量の合計のうち最小のもの又は当該居室に設けられた給</p> |

気口（当該居室に設けられた有効開口部の開放に伴い開放され又は常時開放状態にある給気口に限る。）の開口面積の合計に五百五十を乗じたもののうち、いずれか小さい数値）（単位 立方メートル毎分）

| | | |
|------------|--|--|
| | <p>当該居室に設けられた有効開口部の種類</p> | <p>当該居室に設けられた各有効開口部の排煙量</p> |
| <p>(一)</p> | <p>有効開口部を排煙口とした場合に、当該居室に設けられた排煙設備が令第二百二十六条の三第一項第二号、第三号（排煙口の壁における</p> | $e_{r,room} = 186 \left(\frac{1.205 - p_{r,room}}{p_{r,room}} \right)^{1/2} \times \max \left\{ \frac{A_{s(room)} \sqrt{h_{s(room)}}}{4}, \frac{A_{s(room)} \sqrt{H_{d(room)}} - 1.8}{\sqrt{1 + \left(\frac{A'_{s(room)}}{A_{d(room)}} \right)^2}} \right\}$ |

位置に係る部分を除く。）、第四号から第六号まで及び第十号から第十二号までの規定（以下「自然排煙関係規定」という。）に適合し、かつ、当該居室の壁の床面からの高さが一・八メートル以下の部分に排煙口の開放に連動して自動的に開放され又は常時開放状態にある給気口が設けられたもの（当該居室に設けられた当該排煙設備以外の排煙設備が同項第二号、第三号（排煙口の壁における位置に係る部分を除く。）、第

| | |
|---|--|
| <p>四号から第七号まで、第八号（排煙口の開口面積に係る部分を除く。）、第九号（空気を排出する能力に係る部分を除く。）及び第十号から第十二号までの規定（以下「機械排煙関係規定」という。）に適合する場合を除く。）</p> | <p>(二) 有効開口部を排煙口とした場合に、当該居室に設けられた排煙設備が機械排煙関係規定に適合し、かつ、当</p> |
| | $E_{r,room} = \min \left\{ W_{r,room}, \frac{3.7 \times 10^4 \Delta T_{r,room}}{P_{r,room} (\Delta T_{r,room} + 293)^2 (H_{e(r,room)} - 1.8) W_{r,room}^{3/5}} \right\}$ |

| | | |
|--|------------------------------------|--|
| <p>次の数値を表すものとする。</p> <p>この表において、 $e_{r,room}$、 $\rho_{r,room}$、 $A_{s(room)}$、 $h_{s(room)}$、 $H_c(room)$、 $A'_{s(room)}$、 $A_a(room)$、 w_{room} 及び $\Delta T_{r,room}$ は、それぞれ</p> | (三) | |
| | <p>その他の有効開口部</p> | <p>該居室の壁の床面からの高さが一・八メートル以下の部分に排煙口の開放に連動して自動的に開放され又は常時開放状態にある給気口が設けられたもの（当該居室に設けられた当該排煙設備以外の排煙設備が自然排煙関係規定に適合する場合を除く。）</p> |
| | <p>$e_{r,room} = 0$</p> | |

| $A_{a(room)}$ | $A'_{s(room)}$ | $H_{c(room)}$ | $h_{s(room)}$ | $A_{s(room)}$ | $\rho_{r,room}$ | $e_{r,room}$ |
|-------------------------------|-------------------------------------|------------------------------------|-----------------------------|-------------------------|-------------------------------|-----------------------------------|
| 当該居室に設けられた給気口（当該有効開口部の開放に伴い開放 | 当該有効開口部及び他の有効開口部の開口面積の合計（単位 平方メートル） | 当該居室の基準点から当該有効開口部の中心までの高さ（単位 メートル） | 当該有効開口部の上端と下端の垂直距離（単位 メートル） | 当該有効開口部の開口面積（単位 平方メートル） | 当該居室の煙層密度（単位 一立方メートルにつきキログラム） | 当該居室に設けられた各有効開口部の排煙量（単位 立方メートル毎分） |

され又は常時開放状態にある給気口に限る。)の開口面積の合計(単位 平方メートル)

W_{room}
当該有効開口部の排煙機の空気を排出することができる能力(単位 立方メートル毎分)

$\Delta T_{r,room}$
当該居室の煙層上昇温度(単位 度)

三 令第二百二十九条第三項第二号ロに規定する避難上支障のある高さは、一・八メートルとする。

四 令第二百二十九条第三項第二号に規定する方法を用いる場合における同項第一号ニに規定する階に存する者の全てが当該火災室で火災が発生してから当該階からの避難を終了するまでに要する時間(以下「階避難完了時間」という。)は、次に掲げる時間を合計して計算するものとする。

イ 当該階の各室及び当該階を通らなければ避難することができない建築物の部分(以下

「当該階の各室等」という。）の用途に応じ、それぞれ次の表に掲げる式によって計算した火災が発生してから階に存する者が避難を開始するまでに要する時間（以下「階避難開始時間」という。）（単位 分）

| 当該階の各室等の用途 | 階避難開始時間 |
|---|--|
| 病院、診療所（患者の収容施設があるものに限る。）又は児童福祉施設等（通所のみにより利用されるものを除く。） | $t_{\text{start(floor)}} = \min \left(5 \times 10^{-3} L_{\text{wait(floor)}}^{6/5}, \frac{2 \times 10^{-3} L_{\text{wait(floor)}}^{6/5}}{\alpha_{\text{floor}}^{1/5}} + t_{0(\text{floor})} \right)$ |
| 共同住宅、ホテルその他これらに類する用途（病院、診療所及び児童福祉施設等を除く。） | $t_{\text{start(floor)}} = \min \left(5 \times 10^{-3} L_{\text{wait(floor)}}^{6/5}, \frac{2 \times 10^{-3} L_{\text{wait(floor)}}^{6/5}}{\alpha_{\text{floor}}^{1/5}} + t_{0(\text{floor})} \right) + 5$ |

| | |
|---|---|
| <p>その他の用途</p> | $t_{start(floor)} = \min \left(5 \times 10^{-3} L_{wall(floor)}^{6/5}, \frac{2 \times 10^{-3} L_{wall(floor)}^{6/5}}{\alpha_{floor}^{1/5}} + t_{0(floor)} \right) + 3$ |
| <p>この表において、 $t_{start(floor)}$、 $L_{wall(floor)}$、 α_{floor} 及び $t_{0(floor)}$ は、それぞれ次の数値を表すものとする。</p> <p>$t_{start(floor)}$ 階避難開始時間 (単位 分)</p> <p>$L_{wall(floor)}$ 当該火災室の周長 (単位 メートル)</p> <p>α_{floor} 次の式によって計算した当該火災室又は当該火災室に隣接する室 (当該火災室と準耐火構造の壁若しくは準不燃材料で造り、若しくは覆われた壁又は十分間防火設備で区画されたものを除く。以下同じ。) の火災成長率のうち最大</p> | |

のもの（以下「火災室火災成長率」という。）

$$\alpha_{floor,i} = \max\{5.8 \times 10^{-4} (0.26q_i)^{1/3} - \varphi_{sp}, q_i^{2/3}, 0.0125\} \times k_m$$

この式において、 $\alpha_{floor,i}$ 、 q_i 、 φ_{sp} 及び k_m は、それぞれ次の数値を表すものとする。

$\alpha_{floor,i}$ 当該火災室又は当該火災室に隣接する室の火災成長率

q_i 第一号イに規定する積載可燃物の一平方メートル当たりの発熱量（単位 一平方メートルにつきメガジュール）

φ_{sp} 当該室の種類に応じ、それぞれ次の表に定める燃焼表面積低減率

| | |
|--|----------|
| 当該室の種類 | 燃焼表面積低減率 |
| 天井の高さが三・五メートル以下であり、かつ、天井の室内に面する部分（回り縁、窓台その | ○・五 |

k_m

第一号イに規定する内装燃焼係数

| | |
|-------|---|
| その他の室 | 他これらに類する部分を除く。 （の仕上げを準不燃材料とした室（スプリンクラー設備（水源として、水道の用に供する水管を当該スプリンクラー設備に連結したものを除く。以下同じ。） 、水噴霧消火設備、泡消火設備その他これらに類するもので自動式のもの（以下「スプリンクラー設備等」という。）が設けられたものに限る。） |
| ○ | |

$t_{0(floor)}$

次の式によって計算した当該火災室の燃焼拡大補正時間（単位 分）

$$t_{0(floor)} = \frac{100 - \left(\frac{100}{\alpha_{floor}}\right)^{1/2}}{60}$$

この式において、 $t_{0(floor)}$ 及び α_{floor} は、それぞれ次の数値を表すものとする。

$t_{0(floor)}$ 当該火災室の燃焼拡大補正時間（単位 分）

α_{floor} 火災室火災成長率

ロ 当該階の各室等の各部分から直通階段（当該階が避難階以外の階で病院、診療所（患者の収容施設を有するものに限る。）又は児童福祉施設等（通所のみにより利用されるものを除く。）の用途に供するものである場合にあつては、令第百二十三条第三項第一号から第十一号までに定める構造とした直通階段に限り、当該階が避難階である場合にあっては地上とする。以下このロにおいて同じ。）に至る各経路（避難の用に供するものであつて、当該経路上にある各出口の幅が六十センチメートル以上であるもの）に限り

、当該室が当該火災室又は当該火災室（居室であるものに限る。）を通らなければ避難することができない部分である場合以外の場合にあつては、当該火災室を経由するものを除く。以下この口において「避難経路」という。）ごとに、当該階の各室等の用途、当該階の種類、当該直通階段の種類及び階出口滞留時間に応じ、それぞれ次の表に掲げる式によって計算した階に存する者が当該階の各室等の各部分から当該階から直通階段への出口（幅が六十センチメートル未満であるものを除く。以下同じ。）の一に達し、当該出口を通過するために要する時間（以下「階出口通過時間」という。）のうち最大のもの（単位 分）

| | | |
|------------|---|---|
| 当該階の各室等の用途 | 病院、診療所（患者の収容施設があるものに限る。） | |
| 当該階の種類 | 避難階 | 避難階以下 |
| 当該直通階段の種類 | | |
| 階出口滞留時間 | | |
| 階出口通過時間 | $t_{\text{pass(floor)};i} = \sum_{\text{crowd}} \frac{l_{\text{floor}}}{v}$ | $t_{\text{pass(floor)};i} = \sum_{\text{crowd}} \frac{l_{\text{floor}}}{v}$ |

又は児童福祉施設
等（通所のみによ
り利用されるもの
を除く。）

外の階（
当該階に
設けられ
た直通階
段の階段
室と屋内
とを連絡
するバル
コニー又
は付室の
床面積（
バルコニ
ーで床面
積がない
ものにあ
つては、

| | |
|---|--|
| <p>その他の用途</p> | |
| <p>避難階</p> | <p>床部分の面積)の合計が当該階にあるベッドの数に四を乗じた数値以上であるものに限る。</p> |
| | |
| <p>ある場合</p> <p>$t_{\text{crowd(floor)}} \geq 3$ だけ</p> | |
| <p>$t_{\text{pass(floor),i}} = \max \left(\sum_{D_{\text{crowd}}} \frac{L_{\text{floor},i}}{D_{\text{crowd}}}, t_{\text{crowd(floor)}} \right)$</p> | |

| | | | |
|---------|--|--|--|
| | | $t_{\text{crowd}(floor)} > 3$ である場合 | $t_{\text{pass}(floor),i} = \max \left(\sum_{v_{\text{crowd}}} \frac{l_{\text{floor}}}{v_{\text{crowd}}}, t_{\text{crowd}(floor)} \right) + 3 \times \max(1, N' - 2)$ |
| 避難階以外の階 | 屋内と階段室とが付室を通じて連絡しており、かつ、屋内と付室とが準耐火構造の壁又は法第二條第九号の | $t_{\text{crowd}(floor)} \leq 6$ である場合 | $t_{\text{pass}(floor),i} = \max \left(\sum_{v_{\text{crowd}}} \frac{l_{\text{floor}}}{v_{\text{crowd}}}, t_{\text{crowd}(floor)} \right)$ |

| | | |
|--|---|--|
| <p>二口に規定する防火設備（令第一百十二条第十九項第二号に規定する構造であるものに限る。）で区画された直通階段</p> | <p>$t_{\text{crowd}(\text{floor})} > 6$ である場合</p> | $t_{\text{pass}(\text{floor}),i} = \max \left(\sum_{v_{\text{crowd}}} \frac{L_{\text{floor}}}{v_{\text{crowd}}}, t_{\text{crowd}(\text{floor})} \right) + 3 \times \max(1, N' - 2)$ |
| <p>その他の直通階段</p> | <p>$t_{\text{crowd}(\text{floor})} \leq 3$ である場合</p> | $t_{\text{pass}(\text{floor}),i} = \max \left(\sum_{v_{\text{crowd}}} \frac{L_{\text{floor}}}{v_{\text{crowd}}}, t_{\text{crowd}(\text{floor})} \right)$ |

| | | | | | |
|--|---|--|--|---|---|
| <p>v_{crowd}</p> <p>第一号口に規定する滞留時歩行速度（単位 メートル毎分）</p> | <p>l_{floor}</p> <p>当該階の各室等の各部分から当該避難経路上にある当該階から直通階段への出口の一に至る歩行距離（単位 メートル）</p> | <p>$t_{pass(floor),i}$</p> <p>階出口通過時間（単位 分）</p> | <p>この表において、 $t_{pass(floor),i}$、 l_{floor}、 v_{crowd}、 $t_{crowd(floor)}$ 及び N' は、それぞれ次の数値を表すものとする。</p> | <p>$t_{crowd(floor)} > 3$ である場合</p> | $t_{pass(floor),i} = \max\left(\sum_{\frac{l_{floor}}{v_{crowd}}, t_{crowd(floor)}\right) + 3 \times \max(1, N' - 2)$ |
|--|---|--|--|---|---|

$t_{crowd(floor)}$

当該階の各室等の用途及び当該避難経路上にある当該階から直通階段への出口の幅の合計に応じ、それぞれ次の表に掲げる式によって計算した階出口滞留時間（単位 分）

| | | | | | |
|-------------------|------------------------------------|--|--|----------------|---|
| <p>当該階の各室等の用途</p> | <p>児童福祉施設等（通所のみにより利用されるものに限る。）</p> | <p>当該避難経路上にある当該階から直通階段への出口の幅の合計</p> | <p>$90B_{floor} \leq R_{st(floor)}$ である場合</p> | <p>階出口滞留時間</p> | <p>$t_{crowd(floor)} = \frac{P_{floor}}{45B_{floor}}$</p> |
| | | <p>$90B_{floor} > R_{st(floor)}$ である</p> | | | <p>$t_{crowd(floor)} = \frac{P_{floor}}{0.5R_{st(floor)}}$</p> |

| | | |
|---|--|--|
| | <p>場合</p> | |
| <p>その他の用途</p> | <p> $90B_{floor} \leq R_{st(floor)}$ である 場合 </p> | $t_{crowd(floor)} = \frac{P_{floor}}{90B_{floor}}$ |
| <p>この表において、 B_{floor}、 $R_{st(floor)}$、 $t_{crowd(floor)}$ 及び P_{floor} は、それぞれ次の数値を表すものとする。</p> | <p> $90B_{floor} > R_{st(floor)}$ である 場合 </p> | $t_{crowd(floor)} = \frac{P_{floor}}{R_{st(floor)}}$ |
| <p> B_{floor} 当該避難経路上にある当該階から直通階段への出口の幅の合計（単位メートル） </p> | | |

$R_{st(floor)}$

次の式によって計算した当該避難経路上の直通階段の有効流動量（単位 一分につき人）

$$R_{st(floor)} = D_{st(floor)} N_{st(floor)}$$

この式において、 $R_{st(floor)}$ 、 $D_{st(floor)}$ 及び $N_{st(floor)}$ は、それぞれ次の数値を表すものとする。

$R_{st(floor)}$ 当該避難経路上の直通階段の有効流動量（単位 一分につき人）

$D_{st(floor)}$ 当該直通階段の幅（単位 メートル）

$N_{st(floor)}$ 当該直通階段の種類、避難の方向及び当該直通階段の幅に応じ、それぞれ次の表に掲げる式によって計算した当該直通階段の流動係数（単位 一分メートルにつき人）

| | | | |
|--|-------------------|---|--|
| <p>当該直通階段 の種類の</p> | <p>避難の 方向</p> | <p>当該直 通階段 の幅</p> | <p>当該直通階段 の流動係数</p> |
| <p>屋内と階段室と が付室を通じて 連絡しており、 かつ、屋内と付 室とが準耐火構 造の壁若しくは 不燃材料で造り 、若しくは覆わ れた壁又は法第</p> | <p>下り</p> | <p>$D_{landing(floor)}$ $< D_{st(floor)}$ である 場合</p> | $N_{st(floor)} = \min \left\{ 72 - 48 \left(1 - \frac{D_{landing(floor)}}{D_{st(floor)}} \right), 90 \frac{D_{landing(floor)}}{D_{st(floor)}} \right\}$ |
| | | <p>$D_{landing(floor)}$ $\geq D_{st(floor)}$ である 場合</p> | $N_{st(floor)} = 72$ |

| | | | |
|---|-----------|---|--|
| <p>二条第九号の二 口に規定する防 火設備で令第百 十二条第十九項 第二号に規定す る構造であるも ので区画された 直通階段</p> | <p>上り</p> | <p>$D_{\text{landing(floor)}}$ $< D_{\text{st(floor)}}$ である 場合</p> | <p>$N_{\text{st(floor)}} =$ $\min \left\{ 60 - 36 \left(1 - \frac{D_{\text{landing(floor)}}}{D_{\text{st(floor)}}} \right), \right.$ $\left. 90 \frac{D_{\text{landing(floor)}}}{D_{\text{st(floor)}}} \right\}$</p> |
| <p>その他の直通階 段</p> | <p>下り</p> | <p>$D_{\text{landing(floor)}}$ $\geq D_{\text{st(floor)}}$ である 場合</p> | <p>$N_{\text{st(floor)}} = 60$</p> |
| <p>$N_{\text{st(floor)}} =$ $\min \left\{ 72 - 48 \left(1 - \frac{D_{\text{landing(floor)}}}{D_{\text{st(floor)}}} \right), \right.$</p> | | | |

| | | |
|----|-------------------|---|
| | <p>である 場合</p> | $90 \frac{D_{\text{landing(floor)}}}{D_{\text{st(floor)}}} \times 0.5^{\max(N'-2.0)}$ |
| | <p>である 場合</p> | $N_{\text{st(floor)}} = 72 \times 0.5^{\max(N'-2.0)}$ |
| 上り | <p>である 場合</p> | $N_{\text{st(floor)}} = \min \left\{ 60 - 36 \left(1 - \frac{D_{\text{landing(floor)}}}{D_{\text{st(floor)}}} \right), 90 \frac{D_{\text{landing(floor)}}}{D_{\text{st(floor)}}} \right\} \times 0.5^{\max(N'-2.0)}$ |

| | | | |
|--|--------------------------------------|---|---|
| $N_{st(floor)}$ 当該直通階段の流動係数（単位 一分メートルにつき） | $D_{st(floor)}$ 当該直通階段の幅（単位 メートル） | $D_{landing(floor)}$ 当該直通階段の踊り場の幅（単位 メートル） | <p>この表において、 $D_{landing(floor)}$、 $D_{st(floor)}$、 $N_{st(floor)}$ 及び N' は、それぞれ次の数値を表すものとする。</p> <p style="text-align: center;"> $D_{landing(floor)}$、 $D_{st(floor)}$、 $N_{st(floor)}$ </p> <p style="text-align: center;"> $D_{landing(floor)} \cong D_{st(floor)}$ である 場合 </p> <p style="text-align: right;"> $N_{st(floor)} = 60 \times 0.5^{max(N'-2,0)}$ </p> |
|--|--------------------------------------|---|---|

人)
 N' 当該建築物の階数

階出口滞留時間 (単位 分)

P_{floor} $t_{crowd(floor)}$

次の式によって計算した当該階に存する者のうち当該避難経路上にある当該階から直通階段への出口を通過して避難する者の数 (単位 人)

$$P_{floor} = \sum p A_{area(floor)} \times \left(\frac{B_{floor}}{B_{load(floor)}} \right)$$

この式において、 P_{floor} 、 p 、 $A_{area(floor)}$ 、 B_{floor} 及び $B_{load(floor)}$ は、それぞれ次の数値を表すものとする。

P_{floor} 当該階に存する者のうち当該避難経路上にある当該階から直

五 令第百二十九条第三項第二号ハに規定する同項第一号ニの規定によつて計算した階避難完了時間が経過した時における当該火災室において発生した火災により生じた煙等の当該

| N' | 当該建築物の階数 | | | |
|----------------------------|-----------|-----------------------------|----------------------------|--------------------------------|
| $B_{load(floor)}$ | 計（単位メートル） | B_{floor} | $A_{area(floor)}$ | p |
| 当該階から直通階段への出口の幅の合計（単位メートル） | 計（単位メートル） | 当該避難経路上にある当該階から直通階段への出口の幅の合 | 当該階の各室等の各部分の床面積（単位 平方メートル） | 第一号口に規定する在館者密度（単位 一平方メートルにつき人） |

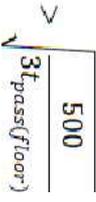
階の各居室（当該火災室を除く。以下この号において同じ。）及び当該居室から直通階段（当該居室が避難階に存する場合にあつては地上）に通ずる主たる廊下その他の建築物の部分における高さ（当該室の基準点から煙等の下端の位置までの高さとする。）は、次のイからハまでに掲げる建築物の部分の区分に応じ、それぞれ当該イからハまでに定める数値とする。

イ 当該火災室に面する部分（当該火災室（居室であるものに限る。）を通らなければ避難することができない部分及びハに掲げる部分を除く。以下「火災室隣接部分」という。） 階避難完了時間、階避難完了時間が経過した時における当該火災室隣接部分の煙層上昇温度（以下単に「火災室隣接部分の煙層上昇温度」という。）及び当該火災室における漏煙開始時間に応じ、それぞれ次の表に掲げる式によって計算した数値（以下「火災室隣接部分の煙層下端高さ」という。）（単位 メートル）

| | | | |
|---------|----------------|-----------------|----------------|
| 階避難完了時間 | 火災室隣接部分の煙層上昇温度 | 当該火災室における漏煙開始時間 | 火災室隣接部分の煙層下端高さ |
|---------|----------------|-----------------|----------------|

| | | | |
|--|--|--|---------------------------------------|
| $t_{\text{escape}}(\text{floor})$ > 10 である場合 | $\Delta T_{f,\text{floor}} > 180$ である場合 | | $Z_{\text{floor}} = 0$ |
| | $\Delta T_{f,\text{floor}} \leq 180$ である場合 | $\Delta T_{f,\text{floor}} > 180$ である場合 | |
| $t_{\text{escape}}(\text{floor})$ ≤ 10 である場合 | $\Delta T_{f,\text{floor}} \leq 180$ である場合 | $\Delta T_{f,\text{floor}} > 180$ である場合 | $Z_{\text{floor}} = 0$ |
| | | $\Delta T_{f,\text{floor}} \leq 180$ である場合 | $Z_{\text{floor}} = 1.8$ |
| $t_{\text{escape}}(\text{floor}) = t_{\text{A(room)}}$ | $\Delta T_{f,\text{floor}} = H_{\text{floor}}$ | $Z_{\text{floor}} = H_{\text{floor}}$ | $Z_{\text{floor}} = H_{\text{floor}}$ |



| | |
|--|---|
| <p>この表において、</p> <p>表すものとする。</p> | |
| <p>$t_{escape(floor)}$、</p> <p>Z_{floor}、</p> <p>$\Delta T_{f,floor}$、</p> <p>$t_{pass(floor)}$、</p> <p>$t_{d(room)}$、</p> <p>H_{floor}、</p> <p>$V_{s(f,floor)}$、</p> <p>$V_{e(f,floor)}$ 及び</p> <p>A_{floor} は、それぞれ次の数値を</p> | |
| <p>前号に規定する階避難完了時間 (単位 分)</p> <p>火災室隣接部分の煙層下端高さ (単位 メートル)</p> <p>次の式によって計算した火災室隣接部分の煙層上昇温度 (単位 度)</p> |  <p>である場合</p> |
| | <p>である場合</p> <p>$t_{escape(floor)} > t_{d(room)}$</p> <p>である場合</p> |
| | $Z_{floor} = \max \left[H_{floor} - \frac{\max(V_{s(f,floor)} - V_{e(f,floor)}, 0.01) \times (t_{escape(floor)} - t_{d(room)})}{A_{floor}}, 0 \right]$ |

$$\Delta T_{f, \text{floor}} = \frac{Q_{f, \text{floor}}}{0.37 Q_{f, \text{floor}}^{1/3} + 0.015 A_{w(\text{floor})}}$$

この式において、 $\Delta T_{f, \text{floor}}$ 、 $Q_{f, \text{floor}}$ 及び $A_{w(\text{floor})}$ は、それぞれ次の数値を表すものとする。

$\Delta T_{f, \text{floor}}$ 火災室隣接部分の煙層上昇温度（単位 度）

$Q_{f, \text{floor}}$ 次の式によって計算した当該火災室からの噴出熱気流の運搬熱量（単位 キロワット）

$$Q_{f, \text{floor}} = \max \left\{ m_d - \frac{0.005 \rho_{f, \text{room}} E_{f, \text{room}} \times \min(\sum C_d A_d, A_a(\text{floor}, r))}{\min(\sum C_d A_d, A_a(\text{floor}, r)) + A_a(f, \text{room})}, 0 \right\} \times \Delta T_{f, \text{room}}$$

この式において、 $Q_{f, \text{floor}}$ 、 m_d 、 $\rho_{f, \text{room}}$ 、 $E_{f, \text{room}}$ 、 C_d 、 A_d 、 $A_a(\text{floor}, r)$ 、 $A_a(f, \text{room})$ 及び $\Delta T_{f, \text{room}}$ は、それぞれ次の数値を表すものとする。

$Q_{f, \text{floor}}$ 当該火災室からの噴出熱気流の運搬熱量（単位 キロワット）

m_d 次に掲げる式によって計算した当該火災室からの噴出熱気流の質量流量（単位 キログラム毎秒）

$$m_d = 0.5H_{d(max)}^{1/2} \sum C_d A_d + 0.5 \sum C_w B_w H_w^{3/2}$$

この式において、 m_d 、 $H_{d(max)}$ 、 C_d 、 A_d 、 C_w 、 B_w 及び H_w は、それぞれ次の数値を表すものとする。

m_d 当該火災室からの噴出熱気流の質量流量（単位 キログラム毎秒）

$H_{d(max)}$ 当該火災室の当該火災室隣接部分に面する壁に設けられた各開口部の下端のうち最も低い位置から当該各開口部の上端のうち最も高い位置までの高さ（単位メートル）

C_d 当該火災室の当該火災室隣接部分に面する壁に設けられた開口部の種類に応じ、それぞれ次の表に定める当該火災室の当該火災室隣接部分に面する壁に設けら

れた開口部の開口率

| | |
|--|---|
| <p>当該火災室の当該火災室隣接部分に面する壁に設けられた開口部の種類</p> | <p>法第二条第九号の二口に規定する防火設備が設けられたもの</p> |
| <p>当該火災室の当該火災室隣接部分に面する壁に設けられた開口部の種類</p> | <p>令第一百十二条第十九項第一号に規定する構造である防火設備（同項第二号に規定する構造であるものを除く。</p> |
| <p>当該火災室の当該火災室隣接部分に面する壁に設けられた開口部の開口率</p> | <p>○・○一</p> |

| | | |
|--|--|------------------------|
| <p>十分間防火設備 （法第二条第九 号の二口に規定 する防火設備を 除き、令第一百 二条第十九項第 二号に規定する</p> | | |
| <p>火設備（同告示 る構造である防 構造方法を用い 一号口に定める</p> | <p>昭和四十八年建 設省告示第二千 五百六十四号第 一</p> | <p>（）が設けられた もの</p> |
| <p>○ ・ ○ ○ 一</p> | <p>○ ・ ○ ○ 一</p> | |

| | |
|---|--|
| <p>あつては、当該等でしたものに の仕上げを木材 部分を除く。） これらに類する 縁、窓台その他 する部分（回り 天井の室内に面 を除く。）及び トル以下の部分 さが一・二メー （床面からの高 当該火災室の壁 けられたもの（ に限る。）が設 構造であるもの に限る。）が設</p> | |
| | <p>別記に規定する 遮煙性能試験に 合格したものに 限る。）が設け られたもの</p> |
| <p>○・○一</p> | |

| | |
|---------------------------|--|
| <p>の内装仕上げの種類</p> | <p>壁（床面からの高さが一・二メートル以下の部分を除く。）及び天井の室内に面する部分（回り縁、窓台その他これらに類する部分を除く。）の仕上げを木材等としたもの</p> |
| <p>の当該火災室隣接部分に面する壁の種類</p> | <p>準耐火構造の壁又は不燃材料で造り、若しくは覆われた壁（以下この表において「準耐火構造の壁等」という。）</p> |
| <p>当該火災室隣接部分に面する壁の開口率</p> | <p>○</p> |
| <p>一・〇</p> | <p>その他の壁</p> |

| | | | |
|---|---------|--------------------------------|-----------------|
| | | その他のもの | |
| 等 | 準耐火構造の壁 | 準不燃材料で造り、又は覆われた壁（準耐火構造の壁等を除く。） | 難燃材料（準不燃材料を除く。） |
| ○ | ○ | ○ | ○ |
| | | Escapel(Floor) ≧5である場合 | Escapel(Floor) |
| | | | く。) |
| | | | Escapel(Floor) |
| | | | 1・○ |

| | | | |
|---|-------|---|-----------------------------|
| この表において、 $t_{escape(floor)}$ は前号に規定する階避難完了時 間（単位 分）を表すものとする。 | その他の壁 | ）、又は 覆われ た壁（ 準耐火 構造の 壁等を 除く。 ） | で造り $\sqrt{5}$ であ る場合 |
| | 一・〇 | | |

B_w 当該火災室の当該火災室隣接部分に面する壁の幅
単位 メートル

H_w 当該火災室の当該火災室隣接部分に面する壁の高さ
(単位 メートル)

$\rho_{f,room}$
次の式によって計算した階避難完了時間が経過した時における当該火災室の煙層密度(以下単に「当該火災室の煙層密度」という。)(単位 一立方メートルにつきキログラム)

$$\rho_{f,room} = \frac{353}{\Delta T_{f,room} + 293}$$

この式において、 $\rho_{f,room}$ 及び $\Delta T_{f,room}$ は、それぞれ次の数値を表すものとする。

$\rho_{f,room}$ 当該火災室の煙層密度(単位 一立方メートルにつきキログラム)

$\Delta T_{f,room}$

階避難完了時間に応じ、それぞれ次の表に掲げる式によって計算した階避難完了時間が経過した時における当該火災室の煙層上昇温度（以下単に「当該火災室の煙層上昇温度」という。）（単位 度）

| | |
|--|---|
| 階避難完了時間 | 当該火災室の煙層上昇温度 |
| $t_{escape(floor)} \leq t_{nl(floor)}$ である場合 | $\Delta T_{f,room} = \min \left[\frac{Q_{f,room}}{0.04Q_{f,room}^{1/3}H_{f,room}^{5/3} + 0.015A_w(f,room) + 0.34m_{sp}H_{f,room}}, \Delta T_{room(max)} \right]$ |
| $t_{escape(floor)} > t_{nl(floor)}$ である場合 | $\Delta T_{f,room} = \Delta T_{room(max)}$ |



| | | | |
|--|---|--|--|
| この表において、 $t_{escape(floor)}$ 、 $t_{m(floor)}$ 、 $\Delta T_{f,room}$ 、 $Q_{f,room}$ 、 H_{room} 、 $A_{w(f,room)}$ 、 m_{sp} 及び | $\Delta T_{room(max)}$ は、それぞれ次の数値を表すものとする。 | $t_{m(floor)}$ $t_{escape(floor)}$ 前号に規定する階避難完了時間（単位 分） | $t_{m(floor)}$ $t_{escape(floor)}$ 当該火災室又は当該火災室に隣接する室内 装仕上げの種類に応じ、それぞれ次の表に掲げ る式によって計算した当該火災室又は当該火災 室に隣接する室の燃焼抑制時間のうち最小のも の（以下「火災室燃焼抑制時間」という。）（ 単位 分） |
|--|---|--|--|



| | | |
|-----------------------|---|---|
| | (二) | (三) |
| <p>の仕上げを不燃材料でしたもの</p> | <p>壁及び天井の室内に面する部分の仕上げを準不燃材料でしたもの(一)に掲げるものを除く。</p> | <p>壁及び天井の室内に面する部分の仕上げを難燃材料でしたもの又は壁の室内に面する部分の仕上げを木材等の仕上げを木材等</p> |
| | $t_{m(\text{Floor})_i} = 10$ | $t_{m(\text{Floor})_i} = 5$ |

| | |
|---|---|
| (四) | |
| <p>壁及び天井の室内に面する部分の仕上げを木材等でしたもの(一)から(三)までに掲げるものを除く。)</p> | <p>でし、かつ、天井の室内に面する部分の仕上げを準不燃材料でしたものの(一)及び(二)に掲げるものを除く。)</p> |
| $t_{m(floor),i} = \min \left\{ t_{0(floor)}, \frac{1}{60} \left(\frac{18H_{floor(min)}^{5/2}}{d_{floor,i}} \right)^{1/2} \cdot 2 \right\}$ | |

| | | | | |
|---------------------------------------|---|------------------------------|-----------------------------------|---|
| $\alpha_{floor,i}$ 火災室に隣接する室の火災成長率 | $H_{floor(min)}$ 置までの高さ（単位メートル） 前号イに規定する当該火災室又は当該 | $t_{0(floor)}$ 大補正時間（単位分） | $t_{m(floor),i}$ 室の燃焼抑制時間（単位分） | この表において、 $t_{m(floor),i}$ 、 $t_{0(floor)}$ 、 $H_{floor(min)}$ 及び $\alpha_{floor,i}$ は、それ ぞれ次の数値を表すものとする。 |
|---------------------------------------|---|------------------------------|-----------------------------------|---|

当該火災室の煙層上昇温度（単位 度）

$Q_{f,room}$ $\Delta T_{f,room}$

階避難完了時間に応じ、それぞれ次の表に掲げる式によって計算した当該火災室における一秒間当たりの発熱量（単位 キロワット）

| | |
|--|--|
| <p>階避難完了時間</p> | <p>当該火災室における一秒間当たりの発熱量</p> |
| <p>$t_{escape(floor)} \leq \frac{5}{3}$ である場合</p> | $Q_{f,room} = 0.01(60t_{escape(floor)})^2$ |
| <p>$t_{escape(floor)} > \frac{5}{3}$ である場合</p> | $Q_{f,room} = a_{floor}(60t_{escape(floor)} - 60t_0(floor))^2$ |

| | | | | |
|-------------------|--------------------|-------------------|----------------------|--|
| $t_{0(floor)}$ | α_{floor} | $Q_{f,room}$ | $t_{escape(floor)}$ | この表において、 $t_{escape(floor)}$ 、 $Q_{f,room}$ 、 α_{floor} 及び $t_{0(floor)}$ は、それ ぞれ次の数値を表すものとする。 |
| 大補正時間（単位 分） | 前号イに規定する当該火災室火災成長率 | 熱量（単位 キロワット） | 前号に規定する階避難完了時間（単位 分） | |
| 前号イに規定する当該火災室の燃焼拡 | | 当該火災室における一秒間当たりの発 | | |

| | m_{sp} | $A_{w(f,room)}$ | H_{room} |
|--------------------------------|---|---|------------|
| 当該火災室の基準点から天井までの高さの平均（単位：メートル） | 当該火災室のスプリンクラー設備等（スプリンクラー設備又は水噴霧消火設備で自動式のものに限る。以下このイにおいて同じ。）の設置の状況に応じ、それぞれ次の表に定めるスプリンクラー設備等の一秒間当たりの有効散水量（単位：キログラム毎秒） | 当該火災室の壁（基準点からの高さが天井の高さの二分の一以下の部分を除く。）及び天井の室内に面する部分の表面積（単位：平方メートル） | |
| 当該火災室のスプ | スプリンクラー設 | | |

$E_{f,room}$

当該火災室に設けられた限界煙層高さ有効開口部（壁又は天

| | | | |
|---|--------|------------------------------|---------------------|
| $\Delta T_{room(max)}$ 度) 第二号に規定する最大煙層上昇温度（単位 | その他の場合 | スプリンクラー設備 等が設けられている 場合 | リンクラー設備等 の設置の状況 |
| | ○ | 二・七 | 備等の一秒間当た りの有効散水量 |

井に設けられた開口部の床面からの高さが限界煙層高さ（令和二年国土交通省告示第五百十号第四号に規定する限界煙層高さをいう。以下同じ。）以上の部分をいう。以下同じ。）の種類に応じ、それぞれ次の表に掲げる式によって計算した当該火災室に設けられた各限界煙層高さ有効開口部及び当該限界煙層高さ有効開口部の開放に伴い開放される当該火災室に設けられた他の限界煙層高さ有効開口部のうち当該限界煙層高さ有効開口部からの距離が三十メートル以内であるもの（以下「他の限界煙層高さ有効開口部」という。）の排煙量の合計のうち最小のもの（当該火災室に設けられた限界煙層高さ有効開口部の種類が同表(ロ)に掲げるものである場合にあつては、当該火災室に設けられた各限界煙層高さ有効開口部及び他の限界煙層高さ有効開口部の排煙量の合計のうち最小のもの又は当該火災室に設けられた給気口（当該火災室に設けられた限界煙層高さ有効開口部の開放に伴い開放され又は常時開放状態にある給気口に限る。）の開口面積の合計に五百五十を乗じたもののうち、いずれ

か小さい数値。以下「当該火災室の排煙量」という。）（単位
立方メートル毎分）

| | | |
|------------|---|--|
| | <p>当該火災室に設けられた限界煙層高さ有効開口部の種類</p> | <p>当該火災室に設けられた各限界煙層高さ有効開口部の排煙量</p> |
| <p>(一)</p> | <p>限界煙層高さ有効開口部を排煙口とした場合に、当該火災室に設けられた排煙設備が自然</p> | $e_{f,room} = 186 \left(\frac{1.205 - p_{f,room}}{p_{f,room}} \right)^{1/2} \times$ $\max \left\{ \frac{A_{s(f,room)} \sqrt{h_{s(f,room)}}}{4}, \frac{A_{s(f,room)} \sqrt{H_{c(f,room)} - H_{lim}}}{\sqrt{1 + \left(\frac{A'_s(f,room)}{A_{a(f,room)}} \right)^2}} \right\}$ |

| | |
|---------------------|--|
| (二) | |
| 限界煙層高さ有効開口 | <p>排煙関係規定に適合し、かつ、当該火災室の壁の床面からの高さが限界煙層高さ以下の部分に排煙口の開放に連動して自動的に開放され又は常時開放状態にある給気口が設けられたもの（当該火災室に設けられた当該排煙設備以外の排煙設備が機械排煙関係規定に適合する場合を除く。）</p> |
| $e_{f,room} = \min$ | |

部を排煙口とした場合に、当該火災室に設けられた排煙設備が機械排煙関係規定に適合し、かつ、当該火災室の壁の床面からの高さが限界煙層高さ以下の部分に排煙口の開放に連動して自動的に開放され又は常時開放状態にある給気口が設けられたもの（当該火災室の煙層上昇温度が二百六十度以上である場合に

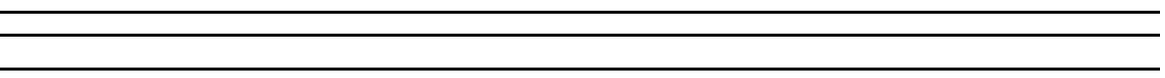
$$\left. \begin{aligned} & W_{f,room} \cdot 3.7 \times 10^4 \frac{\Delta T_{f,room}}{\rho_{f,room} (\Delta T_{f,room} + 293)^2} (H_{c,f,room}) \\ & - H_{lim} W_{f,room}^{3/5} \end{aligned} \right\}$$

| | |
|---------------------|--|
| (三) | |
| 有効開口部 その他の限界煙層高さ | あつては、排煙口が、厚さが一・五ミリメートル以上の鉄板又は鋼板で造り、かつ、厚さが二十五ミリメートル以上のロツクウールで覆われた風道に直結するものに限る。）（当該火災室に設けられた当該排煙設備以外の排煙設備が自然排煙関係規定に適合する場合を除く。） |
| $e_{f,room} = 0$ | |

| | | | | | |
|-------------------------|-------------------------------|--------------------------------|--|---------------------|---|
| $h_{s(f,room)}$ | $A_{s(f,room)}$ | $\rho_{f,room}$ | $e_{f,room}$ | $\Delta T_{f,room}$ | この表において、 $e_{f,room}$ 、 $\rho_{f,room}$ 、 $A_{s(f,room)}$ 、 $h_{s(f,room)}$ 、 $H_c(f,room)$ 、 H_{lim} 、 $A'_{s(f,room)}$ 、 $A_a(f,room)'$ 、 $w_{f,room}$ 及 |
| 当該限界煙層高さ有効開口部の上端と下端の垂直距 | 当該限界煙層高さ有効開口部の開口面積（単位 平方メートル） | 当該火災室の煙層密度（単位 一立方メートルにつきキログラム） | 当該火災室に設けられた各限界煙層高さ有効開口部の排煙量（単位 立方メートル毎分） | は、それぞれ次の数値を表すものとする。 | |



| | | | | | |
|---|---|--|------------------|--|-------------|
| $W_{f,room}$ | $A_{a(f,room)}$ | $A'_{s(f,room)}$ | H_{lim} | $H_{c(f,room)}$ | 離 (単位 メートル) |
| 当該限界煙層高さ有効開口部の排煙機の空気を排出 することができる能力 (単位 立方メートル毎分) | 当該火災室に設けられた給気口 (当該限界煙層高さ 有効開口部の開放に伴い開放され又は常時開放状態に ある給気口に限る。) の開口面積の合計 (単位 平方 メートル) | 当該限界煙層高さ有効開口部及び他の限界煙層高さ 有効開口部の開口面積の合計 (単位 平方メートル) | 限界煙層高さ (単位 メートル) | 当該火災室の基準点から当該限界煙層高さ有効開口 部の中心までの高さ (単位 メートル) | |



| | | | | |
|---|--|--|--|---|
| $\Delta T_{f,room}$ 当該火災室の煙層上昇温度（単位 度） | C_d 当該火災室の当該火災室隣接部分に面する壁に設けられた開口部の開口率 | A_d 当該火災室の当該火災室隣接部分に面する壁に設けられた開口部の開口面積（単位 平方メートル） | $A_{a(floor,r)}$ 当該火災室隣接部分に設けられた給気口（当該火災室に設けられた限界煙層高さ有効開口部の開放に伴い開放され又は常時開放状態にあるものに限る。）の開口面積の合計（単位 平方メートル） | $A_{a(f,room)}$ 当該火災室に設けられた給気口（当該火災室に設けられた限界煙層高さ有効開口部の開放に伴い開放され又は常時開放状態にあるものに限る。）の開口面積の合計（単位 平方メートル） |
|---|--|--|--|---|

$\Delta T_{f,room}$

当該火災室の煙層上昇温度（単位 度）

$A_w(floor)$

当該火災室隣接部分の壁（基準点からの高さが一・八メートル以下の部分を除く。）及び天井の室内に面する部分の表面積（単位 平方メートル）

前号口に規定する階出口通過時間のうち最大のもの（単位 分）

$t_{d(room)}$ $t_{pass(floor)}$

次の式によって計算した当該火災室における漏煙開始時間（単位 分）

$$t_{d(room)} = \min \left[\frac{A_{room} (Z_{phase1(floor)} - H_{lim})}{\max(V_{s(f,room)} - V_{e(f,room)}, 0.01)} + \frac{5}{3} t_{m(floor)} \right]$$

この式において、
 $t_{d(room)}$ 、
 A_{room} 、
 $Z_{phase1(floor)}$ 、
 H_{lim} 、
 $V_{s(f,room)}$ 、
 $V_{e(f,room)}$
及び
 $t_{m(floor)}$
は、それぞれ次の数値を

表すものとする。

$t_d(\text{room})$ 当該火災室における漏煙開始時間（単位 分）

A_{room} 当該火災室の床面積（単位 平方メートル）

$Z_{\text{phase1}(\text{floor})}$ 次の式によって計算した火災発生後百秒間が経過した時における当

該火災室の基準点から煙等の下端の位置までの高さ（以下「火災室煙層下端高さ」という。）（単位 メートル）

$$Z_{\text{phase1}(\text{floor})} = \max \left[\frac{26}{\rho_{f,\text{room}} A_{\text{room}}} + \frac{1}{(H_{\text{room}} + h_{\text{room}})^{2/3}} \right]^{-3/2} - h_{\text{room}}, H_{\text{lim}}$$

この式において、 $Z_{\text{phase1}(\text{floor})}$ 、 $\rho_{f,\text{room}}$ 、 A_{room} 、 H_{room} 、 h_{room} 及び H_{lim} は、それぞれ次の数値を表すものとする。

 H_{lim}

| H_{lim} | h_{room} | H_{room} | A_{room} | $\rho_{f,room}$ | $Z_{phase1(floor)}$ |
|--------------------|---------------------------------------|-----------------------------------|-------------------------|-----------------------------------|---|
| 限界煙層高さ（単位 メートル） | 当該火災室の床面の最も低い位置から基準点までの高さ（単位 メートル） | 当該火災室の基準点から天井までの高さの平均（単位 メートル） | 当該火災室の床面積（単位 平方メートル） | 当該火災室の煙層密度（単位 一立方メートルにつきキログラム） | 火災発生後百秒間が経過した時における火災室煙層下端高さ （単位 メートル） |

$V_{s(f,room)}$

次の式によって計算した当該火災室の煙等発生量（単位 立方メートル毎分）

$$V_{s(f,room)} = \frac{4.2 \left(\frac{Q_{f,room}}{3} \right)^{1/3} \left\{ (Z_{phase1(floor)} + h_{room})^{5/3} + (H_{lim} + h_{room})^{5/3} \right\}}{\rho_{f,room}}$$

この式において、 $V_{s(f,room)}$ 、 $Q_{f,room}$ 、 $Z_{phase1(floor)}$ 、 h_{room} 、 H_{lim} 及び $\rho_{f,room}$ は、それぞれ次の数値を表すものとする。

$V_{s(f,room)}$ 当該火災室の煙等発生量（単位 立方メートル毎分）

$Q_{f,room}$ 当該火災室における一秒間当たりの発熱量（単位 キロワット）

$Z_{phase1(floor)}$

火災発生後百秒間が経過した時における火災室煙層下端高さ
(単位 メートル)

h_{room}

当該火災室の床面の最も低い位置から基準点までの高さ (単位
メートル)

H_{lim}

限界煙層高さ (単位 メートル)

$\rho_{f,room}$

当該火災室の煙層密度 (単位 一立方メートルにつきキログラム)

$V_{e(f,room)}$

次の式によって計算した当該火災室の有効排煙量 (単位 立方メートル毎分)

$$V_{e(f,room)} = \min(1.5A_{room}^{-0.15}, 0.8) \times \left(\frac{H_{st(room)} - H_{lim}}{H_{top(room)} - H_{lim}} \right) E_{f,room}$$

この式において、 $V_{e(f,room)}$ 、 A_{room} 、 $\bar{H}_{st(room)}$ 、 H_{lim} 、 $H_{top(room)}$ 及び $E_{f,room}$ は、それぞれ次の数値を表すものとする。

| | | | | | |
|------------------------|-------------------------------------|-----------------|--|----------------------|--------------------------|
| $E_{f,room}$ | $H_{top(room)}$ | H_{lim} | $\bar{H}_{st(room)}$ | A_{room} | $V_{e(f,room)}$ |
| 当該火災室の排煙量（単位 立方メートル毎分） | 当該火災室の基準点から天井までの高さのうち最大のもの（単位 メートル） | 限界煙層高さ（単位 メートル） | 当該火災室の基準点から当該火災室に設けられた各限界煙層高さ有効開口部の上端までの高さの平均（単位 メートル） | 当該火災室の床面積（単位 平方メートル） | 当該火災室の有効排煙量（単位 立方メートル毎分） |

$t_{m(floor)}$ 火災室燃焼抑制時間 (単位 分)

当該火災室隣接部分の基準点から天井までの高さの平均 (単位 メートル)

次の式によって計算した当該火災室隣接部分の煙等発生量 (単位 立方メートル毎分)

$$V_{s(f,floor)} = \frac{4.2Q_{f,floor}^{1/3} \left\{ (H_{floor} + h_{f,floor})^{5/3} + (1.8 + h_{f,floor})^{5/3} \right\}}{\rho_{f,floor}}$$

この式において、 $V_{s(f,floor)}$ 、 $Q_{f,floor}$ 、 H_{floor} 、 $h_{f,floor}$ 及び $\rho_{f,floor}$ は、それぞれ次の数値を表すものとする。

$V_{s(f,floor)}$ 当該火災室隣接部分の煙等発生量 (単位 立方メートル毎分)

$Q_{f,floor}$ 当該火災室からの噴出熱気流の運搬熱量 (単位 キロワット)

H_{floor} 当該火災室隣接部分の基準点から天井までの高さの平均 (単位 メートル)

メートル)

h_{floor}
当該火災室隣接部分の床面の最も低い位置から基準点までの高さ (単位 メートル)

$\rho_{f,floor}$
次の式によって計算した階避難完了時間が経過した時における当該火災室隣接部分の煙層密度 (以下単に「火災室隣接部分の煙層密度」という。) (単位 一立方メートルにつきキログラム)

$$\rho_{f,floor} = \frac{353}{\Delta T_{f,floor} + 293}$$

この式において、 $\rho_{f,floor}$ 及び $\Delta T_{f,floor}$ は、それぞれ次の数値を表すものとする。

$\rho_{f,floor}$
火災室隣接部分の煙層密度 (単位 一立方メートルにつきキログラム)

$\Delta T_{f,floor}$
火災室隣接部分の煙層上昇温度 (単位 度)

$V_{e(f, floor)}$

次の式によって計算した当該火災室隣接部分の有効排煙量（単位 立方メートル毎分）

$$V_{e(f, floor)} = \min(1.5A_{floor}^{-0.15}, 0.8) \times \left(\frac{\bar{H}_{st(floor)} - 1.8}{H_{top(floor)} - 1.8} \right) E_{f, floor}$$

この式において、 $V_{e(f, floor)}$ 、 A_{floor} 、 $\bar{H}_{st(floor)}$ 、 $H_{top(floor)}$ 及び $E_{f, floor}$ は、それぞれ次の数値を表すものとする。

$V_{e(f, floor)}$ 当該火災室隣接部分の有効排煙量（単位 立方メートル毎分）

A_{floor} 当該火災室隣接部分の床面積（単位 平方メートル）

$\bar{H}_{st(floor)}$ 当該火災室隣接部分の基準点から当該火災室隣接部分に設けられた各有効開口部の上端までの高さの平均（単位 メートル）

$H_{top(floor)}$

当該火災室隣接部分の基準点から天井までの高さのうち最大のもの
(単位メートル)

$E_{f,floor}$

当該火災室隣接部分に設けられた有効開口部の種類に応じ、それぞれ次の表に掲げる式によって計算した当該火災室隣接部分に設けられた各有効開口部及び当該有効開口部の開放に伴い開放される当該火災室隣接部分に設けられた他の有効開口部のうち当該有効開口部からの距離が三十メートル以内であるもの(以下「他の有効開口部」という。)の排煙量の合計のうち最小のもの(当該火災室隣接部分に設けられた有効開口部の種類が同表(ロ)に掲げるものである場合にあつては、当該火災室隣接部分に設けられた各有効開口部及び他の有効開口部の排煙量の合計のうち最小のもの又は当該火災室隣接部分に設けられた給気口(当該火災室隣接部分に設けられた有効開口部の開放に伴い開放され又は常時開放状態にある給気口に限る。)の開口面積の合計に五百五十を乗じたものうち、いずれか小さい数値)(単位立方メートル)

トル毎分)

| | | |
|------------|---|---|
| | <p>当該火災室隣接部分に設けられた有効開口部の種類</p> | <p>当該火災室隣接部分に設けられた各有効開口部の排煙量</p> |
| <p>(-)</p> | <p>有効開口部を排煙口とした場合に、当該火災室隣接部分に設けられた排煙設備が自然排煙関係規定に適合し、かつ、当該火災室隣接部分の壁の床面からの高</p> | $e_{f, floor} = 186 \left(\frac{1.205 - P_{f, floor}}{P_{f, floor}} \right)^{1/2} \times$ $\max \left\{ \frac{A_{s(f, floor)} \sqrt{h_{s(f, floor)}}}{4}, \frac{A_{s(f, floor)} \sqrt{H_{e(f, floor)} - 1.8}}{1 + \left(\frac{A'_{s(f, floor)}}{A_{e(f, floor)}} \right)^2} \right\}$ |

| | | |
|---|-----------------------------|---|
| (二) | <p>有効開口部を排煙口とした場合に、当該火災</p> | <p>さが一・八メートル以下の部分に排煙口の開放に連動して自動的に開放され又は常時開放状態にある給気口が設けられたもの（当該火災室隣接部分に設けられた当該排煙設備以外の排煙設備が機械排煙関係規定に適合する場合を除く。）</p> |
| $e_{f, floor} = \min \left\{ W_{f, floor}, 3.7 \times 10^4 \frac{\Delta T_{f, floor}}{P_{f, floor} (\Delta T_{f, floor} + 293)^2} (H_{c(f, floor)}) \right\}$ | | |

室隣接部分に設けられた排煙設備が機械排煙関係規定に適合し、かつ、当該火災室隣接部分の壁の床面からの高さが一・八メートル以下の部分に排煙口の開放に連動して自動的に開放され又は常時開放状態にある給気口が設けられたもの（当該火災室隣接部分に設けられた当該排煙設備以外の排煙設備が自然排煙関係規定に適合する場合

| | | | | | | |
|---|---|---|---|--|--|--------|
| $h_{s(f, floor)}$ 当該有効開口部の上端と下端の垂直距離（単位メートル） | $A_{s(f, floor)}$ 当該有効開口部の開口面積（単位平方メートル） | $\rho_{f, floor}$ 火災室隣接部分の煙層密度（単位ログラム） | $e_{f, floor}$ 当該火災室隣接部分に設けられた各有効開口部の排煙量（単位立方メートル毎分） | この表において、 $e_{f, floor}$ 、 $\rho_{f, floor}$ 、 $A_{s(f, floor)}$ 、 $h_{s(f, floor)}$ 、 $H_{c(f, floor)}$ 、 $A'_{s(f, floor)}$ 、 $A_{a(f, floor)}$ 、 $w_{f, floor}$ 及び $\Delta T_{f, floor}$ は、それぞれ | (三) その他の有効開口部 $e_{f, floor} = 0$ | 合を除く。） |
|---|---|---|---|--|--|--------|

| | | | | |
|-----------------------|--|--|-------------------------------------|---|
| $\Delta T_{f, floor}$ | $W_{f, floor}$ | $A_{a(f, floor)}$ | $A'_{s(f, floor)}$ | $H_{c(f, floor)}$ |
| 火災室隣接部分の煙層上昇温度（単位 度） | 当該有効開口部の排煙機の空気を排出することができる能力 （単位 立方メートル毎分） | 当該火災室隣接部分に設けられた給気口（当該有効開口部の開放に伴い開放され又は常時開放状態にある給気口に限る。）の開口面積の合計（単位 平方メートル） | 当該有効開口部及び他の有効開口部の開口面積の合計（単位 平方メートル） | 当該火災室隣接部分の基準点から当該有効開口部の中心までの高さ（単位 メートル） |

A_{floor}

当該火災室隣接部分の床面積（単位 平方メートル）

ロ 火災室隣接部分以外の部分（ハに掲げる部分を除く。）イの規定によって計算した各火災室隣接部分の煙層下端高さのうち最小のものに依じ、それぞれ次の表に定める数値（以下「火災室隣接部分以外の部分の煙層下端高さ」という。）（単位 メートル）

| | |
|-----------------------------|---------------------|
| 各火災室隣接部分の煙層 下端高さのうち最小のもの | 火災室隣接部分以外の部分の煙層下端高さ |
| 一・八メートル以上である場合 | 一・八 |
| 一・八メートル未満である場合 | 〇 |

ハ 直通階段の付室（当該直通階段の階段室又は当該付室の構造が平成二十八年国土交通省告示第六百九十六号に定める構造方法（同告示第四号に定める構造方法にあつては、

送風機が一分間につき九十立方メートル以上の空気を排出することができる能力を有するものに限る。)を用いる構造であるものに限る。) 一・八メートル

六 令第二百二十九条第三項第二号ニに規定する避難上支障のある高さは、一・八メートルとする。

附 則

1 この告示は、公布の日から施行する。

2 階からの避難に要する時間に基づく階避難安全検証法に関する算出方法等を定める件（令和二年国土交通省告示第五百十号）の一部を次のように改正する。

次の表により、改正前欄に掲げる規定の傍線を付した部分をこれに対応する改正後欄に掲げる規定の傍線を付した部分のように改める。

改正後

一 令第二百二十九条第三項第一号に規定する方法を用いる場合における同号イに規定する当該居室に存する者（当該居室を通らなければ避難することができない者を含む。以下「在室者」という。）の全てが当該居室において火災が発生してから当該居室からの避難を終了するまでに要する時間は、次に掲げる時間を合計して計算するものとする。

イ・ロ（略）

ハ 次の式によって計算した在室者が当該居室の出口を通過するために要する時間（以下「居室出口通過時間」という。）（単位：分）

$$t_{queue(room)} = \frac{\sum p A_{area}}{\sum N_{eff(room)} B_{eff(room)}}$$

この式において、 $t_{queue(room)}$ 、 p 、 A_{area} 、 $N_{eff(room)}$ 及び $B_{eff(room)}$ は、それぞれ次の数値を表すものとする。

$t_{queue(room)}$ 居室出口通過時間（単位：分）

p 建築物の部分の種類に応じ、それぞれ次の表に定める在館者密度（単位：一平方メートルにつき人）

| | | |
|-------|-----------|-------|
| 住宅の居室 | 建築物の部分の種類 | 在館者密度 |
| | | 〇・〇六 |

改正前

一 令第二百二十九条第三項第一号に規定する方法を用いる場合における同号イに規定する当該居室に存する者（当該居室を通らなければ避難することができない者を含む。以下「在室者」という。）の全てが当該居室において火災が発生してから当該居室からの避難を終了するまでに要する時間は、次に掲げる時間を合計して計算するものとする。

イ・ロ（略）

ハ 次の式によって計算した在室者が当該居室の出口を通過するために要する時間（以下「居室出口通過時間」という。）（単位：分）

$$t_{queue(room)} = \frac{\sum p A_{area}}{\sum N_{eff(room)} B_{eff(room)}}$$

この式において、 $t_{queue(room)}$ 、 p 、 A_{area} 、 $N_{eff(room)}$ 及び $B_{eff(room)}$ は、それぞれ次の数値を表すものとする。

$t_{queue(room)}$ 居室出口通過時間（単位：分）

p 建築物の部分の種類に応じ、それぞれ次の表に定める在館者密度（単位：一平方メートルにつき人）

| | | |
|-------|-----------|-------|
| 住宅の居室 | 建築物の部分の種類 | 在館者密度 |
| | | 〇・〇六 |

A_{area}

当該居室等の各部分の床面積（単位 平方メートル）

| | | | | | | | | | |
|----------------|--|---------------|-----|-----------------------------|-----|---|---------------------|----------------|----------------|
| 展示室その他これに類するもの | 劇場、映画館、演芸場、観覧場、公会堂、集会場その他これらに類する用途に供する居室 | | 飲食室 | 百貨店又は物品販売業を営む店舗その他これらに類するもの | 教室 | の | 事務室、会議室その他これらに類するもの | 住宅以外の建築物における寝室 | |
| | 固定席の場合 | 座席数を床面積で除した数値 | | | | | | 固定ベッドの場合 | ベッド数を床面積で除した数値 |
| 〇・五 | 一・五 | | 〇・七 | 〇・五 | 〇・七 | | 〇・一二五 | 〇・一六 | |

A_{area}

当該居室等の各部分の床面積（単位 平方メートル）

| | | | | | | | | | |
|----------------|--|---------------|-----|-----------------------------|-----|---|---------------------|----------------|----------------|
| 展示室その他これに類するもの | 劇場、映画館、演芸場、観覧場、公会堂、集会場その他これらに類する用途に供する居室 | | 飲食室 | 百貨店又は物品販売業を営む店舗その他これらに類するもの | 教室 | の | 事務室、会議室その他これらに類するもの | 住宅以外の建築物における寝室 | |
| | 固定席の場合 | 座席数を床面積で除した数値 | | | | | | 固定ベッドの場合 | ベッド数を床面積で除した数値 |
| 〇・五 | 一・五 | | 〇・七 | 〇・五 | 〇・七 | | 〇・一二五 | 〇・一六 | |

$N_{eff(room)}$

当該居室の各出口の幅、当該居室の種類及び当該居室の各出口に面する部分（以下「居室避難経路等の部分」という。）の収容可能人数に応じ、それぞれ次の表に掲げる式によって計算した当該居室の各出口の有効流動係数（単位 一分メートルにつき人）

| | | | |
|---------------|------------------|---|----------------------|
| 幅 出口の 類 | 当該居室の各出口の幅 | 当該居室の種類 居室避難経路等の部分の収容可能人数 | 当該居室の各出口の有効流動係数 |
| | 当該居室の種類 | | |
| 幅 | 六十センチメートル未満である場合 | 六十センチメートル未満である場合 | $N_{eff(room)} = 0$ |
| 幅 | その他の場合 | 地上への出口を有する場合 | $N_{eff(room)} = 90$ |
| 幅 | その他の場合 | その他の場合である場合 $\sum_{d_i(room)} A_{d_i} \geq \sum_{p_i(room)} p_i A_{d_i}$ | $N_{eff(room)} = 90$ |

$N_{eff(room)}$

当該居室の各出口の幅、当該居室の種類及び当該居室の各出口に面する部分（以下「居室避難経路等の部分」という。）の収容可能人数に応じ、それぞれ次の表に掲げる式によって計算した当該居室の各出口の有効流動係数（単位 一分メートルにつき人）

| | | | |
|---------------|------------------|---|----------------------|
| 幅 出口の 類 | 当該居室の各出口の幅 | 当該居室の種類 居室避難経路等の部分の収容可能人数 | 当該居室の各出口の有効流動係数 |
| | 当該居室の種類 | | |
| 幅 | 六十センチメートル未満である場合 | 六十センチメートル未満である場合 | $N_{eff(room)} = 0$ |
| 幅 | その他の場合 | 地上への出口を有する場合 | $N_{eff(room)} = 90$ |
| 幅 | その他の場合 | その他の場合である場合 $\sum_{d_i(room)} A_{d_i} \geq \sum_{p_i(room)} p_i A_{d_i}$ | $N_{eff(room)} = 90$ |

| | | | | | | |
|--|---|--|--|---|--|--|
| <p>$a_n(\text{room})$</p> <p>当該居室避難経路等の部分の各部分の種類に じ、それぞれ次の表に定める必要滞留面積（単位 一人につき平方メートル）</p> | <p>A_{co}</p> <p>当該居室避難経路等の部分の各部分（当該部分 が階段室である場合にあつては、当該居室の存する 階からその直下階までの階段室（当該居室の存する 階が地階である場合にあつては当該居室の存する階 からその直上階までの階段室、当該居室の存する階 が避難階である場合にあつては当該居室の存する階 の階段室）に限る。）の床面積（単位 平方メー トル）</p> | <p>$N_{eff}(\text{room})$</p> <p>当該居室の各出口の有効流動係数（単位 一分 メートルにつき人）</p> | <p>$B_{load}(\text{room})$</p> <p>は、それぞれ次の数値を表すものとする。</p> | <p>この表において、</p> <p>$N_{eff}(\text{room})$</p> <p>A_{co}</p> <p>$a_n(\text{room})$</p> <p>p</p> <p>$A_{load}(\text{room})$</p> <p>$B_{neck}(\text{room})$</p> <p>B_{room}</p> <p>及び</p> | <p>である場合</p> $\sum_{d_i(\text{room})} A_{co} < \sum_{p_i(\text{load}(\text{room}))}$ | $N_{eff}(\text{room}) = \max \left(\frac{80B_{neck}(\text{room}) \sum_{d_i(\text{room})} A_{co}}{B_{room} \sum_{p_i(\text{load}(\text{room}))} B_{load}(\text{room})}, 80B_{neck}(\text{room}) \right)$ |
| | | | | <p>である場合</p> $\sum_{d_i(\text{room})} A_{co} < \sum_{p_i(\text{load}(\text{room}))}$ | $N_{eff}(\text{room}) = \max \left(\frac{80B_{neck}(\text{room}) \sum_{d_i(\text{room})} A_{co}}{B_{room} \sum_{p_i(\text{load}(\text{room}))} B_{load}(\text{room})}, 80B_{neck}(\text{room}) \right)$ | |

| | | | | | | |
|--|--|--|--|---|--|--|
| <p>$a_n(\text{room})$</p> <p>当該居室避難経路等の部分の各部分の種類に じ、それぞれ次の表に定める必要滞留面積（単位 一人につき平方メートル）</p> | <p>A_{co}</p> <p>当該居室避難経路等の部分の各部分（当該部分 が階段室である場合にあつては、当該居室の存する 階からその直下階（当該居室の存する階が地階であ る場合にあつては、その直上階）までの階段室に限 る。）の床面積（単位 平方メートル）</p> | <p>$N_{eff}(\text{room})$</p> <p>当該居室の各出口の有効流動係数（単位 一分 メートルにつき人）</p> | <p>$B_{load}(\text{room})$</p> <p>は、それぞれ次の数値を表すものとする。</p> | <p>この表において、</p> <p>$N_{eff}(\text{room})$</p> <p>A_{co}</p> <p>$a_n(\text{room})$</p> <p>p</p> <p>$A_{load}(\text{room})$</p> <p>$B_{neck}(\text{room})$</p> <p>B_{room}</p> <p>及び</p> | <p>である場合</p> $\sum_{d_i(\text{room})} A_{co} < \sum_{p_i(\text{load}(\text{room}))}$ | $N_{eff}(\text{room}) = \max \left(\frac{80B_{neck}(\text{room}) \sum_{d_i(\text{room})} A_{co}}{B_{room} \sum_{p_i(\text{load}(\text{room}))} B_{load}(\text{room})}, 80B_{neck}(\text{room}) \right)$ |
| | | | | <p>である場合</p> $\sum_{d_i(\text{room})} A_{co} < \sum_{p_i(\text{load}(\text{room}))}$ | $N_{eff}(\text{room}) = \max \left(\frac{80B_{neck}(\text{room}) \sum_{d_i(\text{room})} A_{co}}{B_{room} \sum_{p_i(\text{load}(\text{room}))} B_{load}(\text{room})}, 80B_{neck}(\text{room}) \right)$ | |

| | |
|---------------------|--------|
| 当該居室避難経路等の部分の各部分の種類 | 必要滞留面積 |
| 階段の付室又はバルコニー | ○・二 |
| 階段室 | ○・二五 |
| 居室又は廊下その他の通路 | ○・三 |

P 在館者密度 (単位 一平方メートルにつき人)

$A_{load(room)}$ 当該居室避難経路等の部分を通らなければ避難することができない建築物の各部分 (当該居室の存する階にあるものに限る。) の床面積 (単位 平方メートル)

$B_{neck(room)}$ 当該出口の幅又は当該出口を通ずる当該居室避難経路等の部分の出口 (直通階段に通ずるものに限る。) の幅のうち最小のもの (単位 メートル)

B_{room} 当該出口の幅 (単位 メートル)

$B_{load(room)}$ 当該出口を通ずる当該居室避難経路等の部分を通らなければ避難することができない建築物の部分

| | |
|---------------------|--------|
| 当該居室避難経路等の部分の各部分の種類 | 必要滞留面積 |
| 階段の付室又はバルコニー | ○・二 |
| 階段室 | ○・二五 |
| 居室又は廊下その他の通路 | ○・三 |

P 在館者密度 (単位 一平方メートルにつき人)

$A_{load(room)}$ 当該居室避難経路等の部分を通らなければ避難することができない建築物の各部分 (当該居室の存する階にあるものに限る。) の床面積 (単位 平方メートル)

$B_{neck(room)}$ 当該出口の幅又は当該出口を通ずる当該居室避難経路等の部分の出口 (直通階段に通ずるものに限る。) の幅のうち最小のもの (単位 メートル)

B_{room} 当該出口の幅 (単位 メートル)

$B_{load(room)}$ 当該出口を通ずる当該居室避難経路等の部分を通らなければ避難することができない建築物の部分

(当該居室の存する階にあるものに限る。)の当該出口の通ずる当該居室避難経路等の部分に面する出口の幅の合計(単位メートル)

$B_{eff(room)}$

当該居室の各出口の幅及び火災が発生してから在室者が当該居室の出口の一に達するまでに要する時間に応じ、それぞれの表に掲げる式によって計算した当該居室の各出口の有効出口幅(単位メートル)

| | | |
|---|--|--|
| 当該居室の各出口の幅 | 火災が発生してから在室者が当該居室の出口の一に達するまでに要する時間 | 当該居室の各出口の有効出口幅 |
| | $t_{reach(room)} \leq \frac{0.14}{\sqrt{a_f + a_m}}$ | $B_{eff(room)} = B_{room}$ |
| 当該居室の各出口の幅のうち最大のものが当該居室の出口の幅のうち最大のものである場合 | $t_{reach(room)} > \frac{0.14}{\sqrt{a_f + a_m}}$ | $B_{eff(room)} = \max(B_{room} - 7.2\sqrt{a_f + a_m t_{reach(room)} + 1.0})$ |
| | その他の場合 | $B_{eff(room)} = B_{room}$ |

(当該居室の存する階にあるものに限る。)の当該出口の通ずる当該居室避難経路等の部分に面する出口の幅の合計(単位メートル)

$B_{eff(room)}$

当該居室の各出口の幅及び火災が発生してから在室者が当該居室の出口の一に達するまでに要する時間に応じ、それぞれの表に掲げる式によって計算した当該居室の各出口の有効出口幅(単位メートル)

| | | |
|---|--|--|
| 当該居室の各出口の幅 | 火災が発生してから在室者が当該居室の出口の一に達するまでに要する時間 | 当該居室の各出口の有効出口幅 |
| | $t_{reach(room)} \leq \frac{0.14}{\sqrt{a_f + a_m}}$ | $B_{eff(room)} = B_{room}$ |
| 当該居室の各出口の幅のうち最大のものが当該居室の出口の幅のうち最大のものである場合 | $t_{reach(room)} > \frac{0.14}{\sqrt{a_f + a_m}}$ | $B_{eff(room)} = \max(B_{room} - 7.2\sqrt{a_f + a_m t_{reach(room)} + 1.0})$ |
| | その他の場合 | $B_{eff(room)} = B_{room}$ |

この表において、 $t_{reach(room)}$ 、 α_f 、 α_m 、 $B_{eff(room)}$ 及び B_{room} は、それぞれ次の数値を表すものとする。

$t_{reach(room)}$
 次の式によって計算した火災が発生してから在室者が当該居室の出口の一に達するまでに要する時間（単位 分）

$$t_{reach(room)} = t_{start(room)} + t_{travel(room)}$$

この式において、 $t_{reach(room)}$ 、 $t_{start(room)}$ 及び $t_{travel(room)}$ は、それぞれ次の数値を表すものとする。

$t_{reach(room)}$
 火災が発生してから在室者が当該居室の出口の一に達するまでに要する時間（単位 分）

$t_{start(room)}$
 イに規定する居室避難開始時間（単位 分）

この表において、 $t_{reach(room)}$ 、 α_f 、 α_m 、 $B_{eff(room)}$ 及び B_{room} は、それぞれ次の数値を表すものとする。

$t_{reach(room)}$
 次の式によって計算した火災が発生してから在室者が当該居室の出口の一に達するまでに要する時間（単位 分）

$$t_{reach(room)} = t_{start(room)} + t_{travel(room)}$$

この式において、 $t_{reach(room)}$ 、 $t_{start(room)}$ 及び $t_{travel(room)}$ は、それぞれ次の数値を表すものとする。

$t_{reach(room)}$
 火災が発生してから在室者が当該居室の出口の一に達するまでに要する時間（単位 分）

$t_{start(room)}$
 イに規定する居室避難開始時間（単位 分）

| | | | |
|--|---------------------|---|---|
| <p>$t_{travel(room)}$</p> <p>ロに規定する在室者が当該居室等の各部分から当該居室の出口の一に達するまでに要する歩行時間のうち最大のもの(単位:分)</p> | | <p>α_f</p> <p>当該室の積載可燃物の一平方メートル当たりの発熱量に応じ、それぞれ次の表に掲げる式によって計算した積載可燃物の火災成長率</p> | |
| | | <p>当該室の積載可燃物の一平方メートル当たりの発熱量</p> | <p>積載可燃物の火災成長率</p> |
| <p>当該室の種類</p> | <p>当該室の積載可燃物の種類</p> | <p>$q_l \leq 170$である場合</p> | <p>$\alpha_f = 0.0125$</p> |
| | | <p>$q_l > 170$である場合</p> | <p>$\alpha_f = 2.6 \times 10^{-6} q_l^{5/3}$</p> |

この表において、 q_l 及び α_f は、それぞれ次の数値を表すものとする。

q_l 当該室の種類に応じ、それぞれ次の表に定める当該室の積載可燃物の一平方メートル当たりの発熱量(単位:一平方メートルにつきメガジュール)

| | | | |
|--|---------------------|---|---|
| <p>$t_{travel(room)}$</p> <p>ロに規定する在室者が当該居室等の各部分から当該居室の出口の一に達するまでに要する歩行時間のうち最大のもの(単位:分)</p> | | <p>α_f</p> <p>当該室の積載可燃物の一平方メートル当たりの発熱量に応じ、それぞれ次の表に掲げる式によって計算した積載可燃物の火災成長率</p> | |
| | | <p>当該室の積載可燃物の一平方メートル当たりの発熱量</p> | <p>積載可燃物の火災成長率</p> |
| <p>当該室の種類</p> | <p>当該室の積載可燃物の種類</p> | <p>$q_l \leq 170$である場合</p> | <p>$\alpha_f = 0.0125$</p> |
| | | <p>$q_l > 170$である場合</p> | <p>$\alpha_f = 2.6 \times 10^{-6} q_l^{5/3}$</p> |

この表において、 q_l 及び α_f は、それぞれ次の数値を表すものとする。

q_l 当該室の種類に応じ、それぞれ次の表に定める当該室の積載可燃物の一平方メートル当たりの発熱量(単位:一平方メートルにつきメガジュール)

| | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|---------|-------|----------------|----------------|----------------|----|---------------------|--------------------------|-----------------------------|-----------------------|--------|-------|--------|--------------------|
| 飲食室 | 飲食店その他の | 住宅の居室 | 住宅以外の建築物における寝室 | 事務室その他これに類するもの | 会議室その他これに類するもの | 教室 | 体育館のアリーナその他これに類するもの | 博物館又は美術館の展示室その他これらに類するもの | 百貨店又は物品販売業を営む店舗その他これらに類するもの | 家具又は書籍の売場その他これらに類するもの | その他の部分 | 簡易な食堂 | その他の飲食 | 一平方メートル当たり の発熱量 |
| | 四八〇 | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|---------|-------|----------------|----------------|----------------|----|---------------------|--------------------------|-----------------------------|-----------------------|--------|-------|--------|--------------------|
| 飲食室 | 飲食店その他の | 住宅の居室 | 住宅以外の建築物における寝室 | 事務室その他これに類するもの | 会議室その他これに類するもの | 教室 | 体育館のアリーナその他これに類するもの | 博物館又は美術館の展示室その他これらに類するもの | 百貨店又は物品販売業を営む店舗その他これらに類するもの | 家具又は書籍の売場その他これらに類するもの | その他の部分 | 簡易な食堂 | その他の飲食 | 一平方メートル当たり の発熱量 |
| | 四八〇 | | | | | | | | | | | | | |

| 店舗その他こ 販売業を営む 若しくは物品 途又は百貨店 らに類する用 場その他これ 若しくは集会 覧場、公会堂 、演芸場、観 劇場、映画館 一六〇 | 廊下、階段その他の通路 三二二 | 自動車車庫又は 自動車修理工場 | | 舞台部分 二四〇 | 劇場、映画館、 演芸場、観覧場 、公会堂、集會 室その他これら に類する用途に 供する室 | | 客席部 固定席 の場合 四〇〇 | その他 の場合 四八〇 | 車室その他こ れに類する部 分 二四〇 | 車路その他こ れに類する部 分 三二二 | 劇場、映画館 、演芸場、観 覧場、公会堂 若しくは集会 場その他これ らに類する用 途又は百貨店 若しくは物品 販売業を営む 店舗その他こ | 室 |
|---|--------------------|--------------------|---|-------------|---|---|--------------------------|-------------------|------------------------------|------------------------------|--|---|
| | | 分 | 分 | | 分 | | | | | | | |
| | | | | | 分 | 分 | | | | | | |
| 一六〇 | 三二二 | | | 二四〇 | | | 四〇〇 | 四八〇 | 二四〇 | 三二二 | 劇場、映画館 、演芸場、観 覧場、公会堂 若しくは集会 場その他これ らに類する用 途又は百貨店 若しくは物品 販売業を営む 店舗その他こ | 室 |

| 店舗その他こ 販売業を営む 若しくは物品 途又は百貨店 らに類する用 場その他これ 若しくは集会 覧場、公会堂 、演芸場、観 劇場、映画館 一六〇 | 廊下、階段その他の通路 三二二 | 自動車車庫又は 自動車修理工場 | | 舞台部分 二四〇 | 劇場、映画館、 演芸場、観覧場 、公会堂、集會 室その他これら に類する用途に 供する室 | | 客席部 固定席 の場合 四〇〇 | その他 の場合 四八〇 | 車室その他こ れに類する部 分 二四〇 | 車路その他こ れに類する部 分 三二二 | 劇場、映画館 、演芸場、観 覧場、公会堂 若しくは集会 場その他これ らに類する用 途又は百貨店 若しくは物品 販売業を営む 店舗その他こ | 室 |
|---|--------------------|--------------------|---|-------------|---|---|--------------------------|-------------------|------------------------------|------------------------------|--|---|
| | | 分 | 分 | | 分 | | | | | | | |
| | | | | | 分 | 分 | | | | | | |
| 一六〇 | 三二二 | | | 二四〇 | | | 四〇〇 | 四八〇 | 二四〇 | 三二二 | 劇場、映画館 、演芸場、観 覧場、公会堂 若しくは集会 場その他これ らに類する用 途又は百貨店 若しくは物品 販売業を営む 店舗その他こ | 室 |

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|--------------|-----|--------------------------------------|--------|---|---------------------------|--------------------|-------|-------------|-----|-----------------|-----|--------|-----|---------------------------------------|
| (-) | 当該室の内装仕上げの種類 | 成長率 | 壁（床面からの高さが一・二メートル以下の部分を除く。以下この表において同 | 〇・〇〇三五 | α_m 当該室の内装仕上げの種類に応じ、それぞれ次の表に定める内装材料の火災成長率 | α_f 積載可燃物の火災成長率 | 倉庫その他の物品の保管の用に供する室 | 二、〇〇〇 | 屋上広場又はバルコニー | 八〇 | 昇降機その他の建築設備の機械室 | 一六〇 | その他のもの | 八〇 | れらに類する用途に供する建築物の玄関ホール、ロビ―その他これらに類するもの |
| | | | | | | | 成長率 | 成長率 | 成長率 | 成長率 | 成長率 | 成長率 | 成長率 | 成長率 | 成長率 |

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|--------------|-----|--------------------------------------|--------|---|---------------------------|--------------------|-------|-------------|-----|-----------------|-----|--------|-----|---------------------------------------|
| (-) | 当該室の内装仕上げの種類 | 成長率 | 壁（床面からの高さが一・二メートル以下の部分を除く。以下この表において同 | 〇・〇〇三五 | α_m 当該室の内装仕上げの種類に応じ、それぞれ次の表に定める内装材料の火災成長率 | α_f 積載可燃物の火災成長率 | 倉庫その他の物品の保管の用に供する室 | 二、〇〇〇 | 屋上広場又はバルコニー | 八〇 | 昇降機その他の建築設備の機械室 | 一六〇 | その他のもの | 八〇 | れらに類する用途に供する建築物の玄関ホール、ロビ―その他これらに類するもの |
| | | | | | | | 成長率 | 成長率 | 成長率 | 成長率 | 成長率 | 成長率 | 成長率 | 成長率 | 成長率 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| <p>じ。)及び天井(天井がない場合にあつては屋根。以下同じ。)の室内に面する部分(回り縁、窓台その他これらに類する部分を除く。以下この表において同じ。)の仕上げを不燃材料としたもの</p> | <p>(二) 壁及び天井の室内に面する部分の仕上げを令第百二十八条の五第一項第二号に掲げる仕上げとしたもの(一)に掲げるものを除く。)</p> | <p>(三) 壁及び天井の室内に面する部分の仕上げを令第百二十八条の五第一項第一号に掲げる仕上げとしたもの(一)及び(二)に掲げるものを除く。</p> | <p>(四) 壁及び天井の室内に面する部分の仕上げを木材その他これに類する材料としたもの(一)から(三)までに掲げるものを除く。)</p> |
| ○・〇一四 | ○・〇一四 | ○・〇五六 | ○・三五 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| <p>じ。)及び天井(天井がない場合にあつては屋根。以下同じ。)の室内に面する部分(回り縁、窓台その他これらに類する部分を除く。以下この表において同じ。)の仕上げを不燃材料としたもの</p> | <p>(二) 壁及び天井の室内に面する部分の仕上げを令第百二十八条の五第一項第二号に掲げる仕上げとしたもの(一)に掲げるものを除く。)</p> | <p>(三) 壁及び天井の室内に面する部分の仕上げを令第百二十八条の五第一項第一号に掲げる仕上げとしたもの(一)及び(二)に掲げるものを除く。</p> | <p>(四) 壁及び天井の室内に面する部分の仕上げを木材その他これに類する材料としたもの(一)から(三)までに掲げるものを除く。)</p> |
| ○・〇一四 | ○・〇一四 | ○・〇五六 | ○・三五 |

二
〜
四

(略)

B_{room} (ル) $B_{eff(room)}$

当該出口の幅 (単位
メートル)

当該居室の各出口の有効出口幅 (単位
メートル)

二
〜
四

(略)

B_{room} (ル) $B_{eff(room)}$

当該出口の幅 (単位
メートル)

当該居室の各出口の有効出口幅 (単位
メートル)